

口腔生命科学各論Ⅱ（3年次生、4年次生）

(1) 衛生学及び同実習	(3年)	100
(2) 予防歯科学及び同実習	(4年)	102
(3) 歯科矯正学及び同実習	(4年)	105
(4) 小児歯科学及び同実習	(4年)	108
(5) 保存修復学	(4年)	111
(6) 保存修復学実習	(4年)	113
(7) 歯内治療学	(4年)	115
(8) 歯内治療学実習	(4年)	117
(9) 歯周病学	(4年)	119
(10) 歯周病学実習	(4年)	121
(11) 冠橋義歯学及び同実習	(4年)	123
(12) 有床義歯補綴学及び同実習	(4年)	126
(13) 口腔外科学Ⅰ及び同実習	(4年)	129
(14) 口腔外科学Ⅱ及び同実習	(4年)	131
(15) 歯科放射線学及び同実習	(4年)	133
(16) 歯科麻酔学及び同実習	(4年)	135

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 木・II,III,IV	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034301		
科目ナンバリング・コード	DNGD33011990		
授業科目名/(英語名)	衛生学及び同実習/(Hygieneology & Public Health)		
対象年次 3年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第1講義室、実習室 5A	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教授室/095-819-7662(内 7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、福田英輝、古堅麗子、北村雅保、小山善哉 非常勤講師:長崎県職員(長崎県環境部)、川崎浩二(長崎大学病院)、堀口逸子(長崎大学東京事務所)		
<p>授業の概要及び位置づけ</p> <p>環境衛生学、公衆衛生学、口腔衛生学、社会歯科学、予防医学など「疾患の予防」に基づく幅広い分野を学ぶ。個人並びに集団の健康を守り、疾病の予防をはかる知識を理解、習得させ且つ問題解決に必要な態度と能力を養う。健康、疾患と社会の関連、予防医学の重要性を理解する。</p>			
<p>授業到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病予防と健康増進の考え方を説明できる。 2. 衛生学の基本的知識、生活環境と健康、廃棄物とその処理、環境保全と環境対策を説明できる。 3. 人口問題と疾病統計、高齢者の現状を説明できる。 4. 医師・歯科医師の責務と医療倫理について説明できる。 5. 感染症の疫学と感染予防を説明できる。 6. 環境保健について説明できる 			
<p>授業方法(学習指導法)</p> <p>講義及び実習</p>			
<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 2 回目: 衛生学、社会歯科学概論 1、2: 衛生学、社会歯科学と健康増進の考え方(齋藤:11/29, 2, 3 校時) 3, 4 回目: 食品の衛生、安全性、ヘルスプロモーション(堀口逸子:12/6, 2, 3 校時) 5, 6 回目: 労働条件、労働環境、職業病、こころの健康、精神保健対策、労災法と労災の疫学(福田:12/13, 2, 3 校時) 7 回目: エビデンスに基づく医療(川崎浩二:12/13, 4 校時) 8 回目: 医療倫理(齋藤:12/20, 2 校時) 9 回目: 感染症の予防(福田:12/20, 3 校時) 10 回目: 国際保健(福田:12/20, 4 校時) 11, 12 回目: 衛生学特別講義-環境保健 1、2: 長崎県環境部の講師による特別講義(長崎県職員:12/27, 3, 4 校時) 13, 14 回目: 衛生学実習: 学生を小グループに分け、水質測定を行う(古堅、北村、小山:1/10, 3, 4 校時) 15 回目: 歯科関連の法律、衛生学、社会歯科学 まとめ(齋藤:1/17, 2 校時) 			
キーワード	衛生、健康、疾患、予防、栄養、疫学、感染、環境、社会		
教科書・教材・参考書	<p>スタンダード衛生・公衆衛生 第15版(学建書院)</p> <p>口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版) [新予防歯科学 第4版、新口腔保健学の改訂本]</p> <p>国民衛生の動向(厚生労働省ホームページ)</p> <p>デンタルスタッフの口腔衛生学・歯科衛生統計(医歯薬出版)</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>筆記試験。口答試験、レポートを課す場合がある。</p> <p>実習を含む全授業を出題範囲とする。</p> <p>実習は必ず出席することとする。欠席した学生は必ず連絡を取ること。</p>		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	11	29	木	II	衛生学、社会歯科学概論1 社会歯科学、衛生学、口腔衛生学、公衆衛生学、予防医学はいずれも疾病の予防のための学問である。その考え方について理解する。	齋藤	第1講義室
2回	11	29	木	III	衛生学、社会歯科学概論2 人口高齢化問題、健康づくり、歯科疾患の疫学について理解する。	齋藤	第1講義室
3回	12	6	木	III	食品の衛生、安全性 食中毒など食のリスクとその管理(リスクマネジメント)について学ぶ。	堀口 (学内非常勤)	第1講義室
4回	12	6	木	IV	ヘルスプロモーション ヘルスプロモーションの概念と実践事例について学ぶ。	堀口 (学内非常勤)	第1講義室
5回	12	13	木	II	産業衛生と精神保健1 産業衛生(労働条件、労働環境、職業病)、精神保健(こころの健康、精神保健対策)、労災法と労災の疫学について理解する。	福田	第1講義室
6回	12	13	木	III	産業衛生と精神保健2 産業衛生(労働条件、労働環境、職業病)、精神保健(こころの健康、精神保健対策)、労災法と労災の疫学について理解する。	福田	第1講義室
7回	12	13	木	IV	エビデンスに基づく医療 システマティックレビュー、コクランライブラリー、EBM (Evidence-Based Medicine) の概念と実際、EBM診療ガイドライン等について理解する。	川崎 (学内非常勤)	第1講義室
8回	12	20	木	II	医療倫理 医療倫理に関する宣言と我が国における法律との関連性を理解する。歯科医師の責務、歯科医師が医療行為をなす基本的責任と義務について学ぶ。	齋藤	第1講義室
9回	12	20	木	III	感染症の予防 感染とその概念と予防。CDC(米国疾病予防管理センター)のガイダンスから感染予防を学ぶ。	福田	第1講義室
10回	12	20	木	IV	国際保健 国際協力の仕組みについて理解する。国際比較を通じて口腔保健の状況を理解する。	福田	第1講義室
11回	12	27	木	III	衛生学特別講義-環境保健1	長崎県 環境部 (学外非常勤)	第1講義室
12回	12	27	木	IV	衛生学特別講義-環境保健2	長崎県 環境部 (学外非常勤)	第1講義室
13回	1	10	木	III	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)を行う。	古堅 北村 小山	実習室5A
14回	1	10	木	IV	衛生学実習 水質測定(フッ化物イオン濃度、硬度等)を行う。	古堅 北村 小山	実習室5A
15回	1	17	木	II	歯科口腔保健の推進に関する法律、衛生学、社会歯科学 まとめ	齋藤	第1講義室

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 月・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034302		
科目ナンバリング・コード	DNGD33021990		
授業科目名/(英語名)	予防歯科学及び同実習/ (Preventive Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第1講義室、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 齋藤俊行/syto@nagasaki-u.ac.jp/口腔保健学分野教授室/095-819-7662(内 7662)/火曜 16:30～			
担当教員(オムニバス科目等)	齋藤俊行、福田英輝、古堅麗子、北村雅保、小山善哉 非常勤講師:花田信弘(鶴見大学)、草野洋介(西九州大学)、川崎浩二、林田秀明(長崎大学病院)		
授業の概要及び位置づけ 予防は医学の原点である。特に口腔疾患については効率のよい予防が可能であることが分かってきた。口腔疾患の予防について個人的アプローチと集団的、社会的アプローチを理解し、口腔の健康を保持・増進するために必要な知識、態度、能力を養う。			
授業到達目標 1.主な口腔疾患(う蝕、歯周疾患)の予防を説明できる。 2.口腔疾患の疫学と指標について説明できる。 3.う蝕予防におけるフッ化物について説明できる。 4.個人および集団レベルでの予防と健康管理を説明できる。 5.地域歯科保健、母子歯科保健、学校歯科保健、成人歯科保健、老人歯科保健、産業歯科保健を説明できる。 6.健康づくりと食生活、栄養、口腔疾患と全身の健康について説明できる。			
授業方法(学習指導法) 講義及び実習			
授業内容 1 回目: 予防歯科学概論(齋藤:4/2, 3 限目) 2 回目: う蝕と歯周病の病因論 1(個体要因、病原要因、環境要因)とリスク評価(林田秀明:4/2, 4 限目) 3 回目: う蝕と歯周病の病因論 2(個体要因、病原要因、環境要因)とリスク評価(林田秀明:4/9, 3 限目) 4 回目: 口腔疾患の疫学 1: 口腔疾患の指標(齋藤 4/9, 4 限目) 5 回目: フッ素と歯科保健 1: フッ素の基礎と歴史(齋藤:4/16, 3 限目) 6 回目: フッ素と歯科保健 2: フッ化物の吸収と排泄、許容量、歯のフッ素症、安全性(北村:4/16, 4 限目) 7 回目: 栄養学 1: 「日本人の食事摂取基準」(草野洋介:4/23, 3 限目) 8 回目: 栄養学 2: 国民栄養の現状と咀嚼、食品保健制度(北村:4/23, 4 限目) 9 回目: プラークコントロール: プラークコントロールの概念と実際(齋藤:5/7, 3 限目) 10 回目: 栄養学 3: 砂糖・代用甘味料とう蝕、歯の酸蝕症(北村:5/7, 4 限目) 11 回目: 地域歯科保健 1: 成人歯科保健、老人歯科保健、産業歯科保健(福田:5/14, 3 限目) 12 回目: 地域歯科保健 2: 歯科保健と社会との関わり(福田:5/14, 4 限目) 13 回目: 栄養学 4: 「国民健康・栄養調査」「長崎県健康・栄養調査」(草野洋介:5/21, 3 限目) 14 回目: 栄養学 5: 肥満、メタボリックシンドロームと口腔保健(齋藤:5/21, 4 限目) 15, 16 回目: 予防歯科学実習 1: 口腔診査法(古堅、北村、小山:5/28, 3, 4 限目) 17 回目: フッ素と歯科保健 3: フッ化物の応用によるう蝕予防(小山:6/4, 3 限目) 18 回目: フッ素と歯科保健 4: フッ化物と再石灰化(小山:6/4, 4 限目) 19, 20 回目: 予防歯科学実習 2: う蝕リスク検査・保健指導(古堅、北村、小山:6/11, 3, 4 限目) 21, 22 回目: 予防歯科学実習 3: う蝕予防填塞法(古堅、北村、小山:6/18, 3, 4 限目) 23, 24 回目: 特別講義: う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ(花田信行:6/25, 3, 4 限目) 25 回目: 地域歯科保健 3: 地域医療・福祉と医療計画(川崎浩二:7/2, 3 限目) 26 回目: 地域歯科保健 4: 学校歯科保健(川崎浩二:7/2, 4 限目) 27 回目: 地域歯科保健 5: 母子保健、母子歯科保健(川崎:7/9, 3 限目) 28 回目: 口腔疾患の疫学 2: 口腔疾患や口腔衛生の状態の指標(index)についてのおさらい(齋藤: 7/9, 4 限目) 29 回目: 口腔疾患の疫学 3: 歯科疾患と肥満や全身疾患との関連(齋藤:7/17, 3 限目) 30 回目: まとめ(齋藤:7/17, 4 限目)			
キーワード	う蝕、歯周疾患、予防、保健、フッ化物、プラークコントロール、地域		
教科書・教材・参考書	口腔保健・予防歯科学(医歯薬出版) [新予防歯科学 第4版、新口腔保健学の改訂本] デンタルスタッフの口腔衛生学・歯科衛生統計(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	筆記試験。口答試問、レポートを課す場合もある。 実習を含む全授業を出題範囲とする。 実習は必ず出席すること。欠席した学生は必ず連絡を取ること。		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	非常勤講師による特別講義は礼節をわきまえること。また出席を重視する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	2	月	Ⅲ	予防歯科学概論 予防歯科学は個人を対象とした分野と集団や社会を対象とした分野に大別され、衛生学、社会歯科学、口腔衛生学、公衆衛生学、予防医学など幅広い分野と重なる。	齋藤	第1講義室
2回	4	2	月	Ⅳ	う蝕と歯周病の病因1 う蝕および歯周病の発病、進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について理解する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても理解する。	林田	第1講義室
3回	4	9	月	Ⅲ	う蝕と歯周病の病因2 う蝕および歯周病の発病、進行に関わる個体要因、病原要因、環境要因について理解する。臨床および地域歯科保健現場で利用されているリスク評価の特徴についても理解する。	林田	第1講義室
4回	4	9	月	Ⅳ	口腔疾患の疫学1 歯は年齢とともに増減する。そのため口腔疾患や口腔衛生の状態を示す指標(index)はたいへん複雑であり、数多く提案されている。口腔の指標について用いられている共通言語を理解する。	齋藤	第1講義室
5回	4	16	月	Ⅲ	フッ素と歯科保健1:フッ素の基礎と歴史 自然界の環境中に存在する必須微量元素であるフッ素について、またその吸収と排泄、許容濃度、歯のフッ素症、歯科分野での応用の歴史について理解する。	齋藤	第1講義室
6回	4	16	月	Ⅳ	フッ素と歯科保健2:フッ化物の安全性 自然界の環境中に存在するフッ素について、その吸収と排泄、許容量、歯のフッ素症、う蝕予防における安全性の確保を理解する。	北村	第1講義室
7回	4	23	月	Ⅲ	栄養学1 「日本人の食事摂取基準」からみたエネルギーおよび各栄養素の摂取量の基準、栄養欠乏と過剰症について学ぶ。	草野 (学外非常勤)	第1講義室
8回	4	23	月	Ⅳ	栄養学2 健康増進の観点から国民栄養の現状と咀嚼の関わりについて概説し、食品保健制度に関する理解を深める。	北村	第1講義室
9回	5	7	月	Ⅲ	プラークコントロール プラークコントロールはう蝕と歯周病の最も基本的な予防法であるが、単に歯磨きを示すものではない。プラークコントロールの概念と実際の方法、生活習慣への組み込み方や指導方について学ぶ。	齋藤	第1講義室
10回	5	7	月	Ⅳ	栄養学3 歯の酸蝕症とう蝕の特異的予防として砂糖および代用甘味料の利用に関して理解を深める。	北村	第1講義室
11回	5	14	月	Ⅲ	地域歯科保健1 (成人・老人・産業歯科保健) 成人を対象とした地域歯科保健事業と産業歯科保健事業について学ぶ。高齢者を取り巻く社会環境の変化を追いながら、高齢者を対象とした歯科保健事業の変遷について学ぶ。	福田	第1講義室
12回	5	14	月	Ⅳ	地域歯科保健2 (歯科保健と社会との関わり) 社会環境の変化を追いながら、地域歯科保健事業の変遷と現状について学ぶ。	福田	第1講義室
13回	5	21	月	Ⅲ	栄養学4 「国民健康・栄養調査」「長崎県健康・栄養調査」からみた国民・長崎県民の健康と栄養の現状を学ぶ。	草野 (学外非常勤)	第1講義室
14回	5	21	月	Ⅳ	栄養学5 肥満とメタボリックシンドロームについて基本的な知識を学び、口腔保健との関連性について理解する。	齋藤	第1講義室
15回	5	28	月	Ⅲ	予防歯科学実習1 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	古堅 北村 小山	臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	5	28	月	IV	予防歯科学実習1 口腔診査法(う蝕、歯周病、その他)	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
17回	6	4	月	III	フッ素と歯科保健3:フッ化物によるう蝕予防 フッ化物はう蝕予防手段として個人対象から集団まで利用される。歯科との関わり、生体に対する作用とフッ化物濃度と作用機序との関連を学ぶ。	小山	第1講義室
18回	6	4	月	IV	フッ素と歯科保健4:フッ化物と再石灰化 フッ化物は再石灰化を促進する。臨床、家庭、公衆衛生的にも利用されるフッ化物がどのように再石灰化を促進するか、そのメカニズムを考える。	小山	第1講義室
19回	6	11	月	III	予防歯科学実習2 う蝕リスク検査・保健指導	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
20回	6	11	月	IV	予防歯科学実習2 う蝕リスク検査・保健指導	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
21回	6	18	月	III	予防歯科学実習3 小窩裂溝填塞法	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
22回	6	18	月	IV	予防歯科学実習3 小窩裂溝填塞法	古堅 北村 小山	臨床実習室4B
23回	6	25	月	III	特別講義 う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ。	花田 (学外非常勤)	第1講義室
24回	6	25	月	IV	特別講義 う蝕の科学と予防の最先端について、口腔バイオフィルムについて最新の情報を学ぶ。	花田 (学外非常勤)	第1講義室
25回	7	2	月	III	地域歯科保健3 地域医療計画、地域医療・福祉の現状と地域医療連携の実際について学ぶ。	川崎 (学内非常勤)	第1講義室
26回	7	2	月	IV	地域歯科保健4 学校歯科保健(学童の健康管理と保健教育、学校歯科医の職務等)について学ぶ。	川崎 (学内非常勤)	第1講義室
27回	7	9	月	III	地域歯科保健5 母子歯科保健(1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査等)について学ぶ。	川崎 (学内非常勤)	第1講義室
28回	7	9	月	IV	口腔疾患の疫学2 口腔疾患や口腔衛生の状態の指標(index)についてのおさらい。歯科疾患実態調査の概要と最新の結果について学ぶ。	齋藤	第1講義室
29回	7	17	火	III	口腔疾患の疫学3 肥満は多くの疾患の危険因子である。肥満と口腔疾患との関連性や歯周病が全身に及ぼす影響について、最新の知見を理解する。	齋藤	第1講義室
30回	7	17	火	IV	まとめ 予防歯科学まとめ	齋藤	第1講義室

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 月・I・II・校時, 火・I校時	必修選択 必修	単位数 3単位																																				
授業コード	25034303																																						
科目ナンバリング・コード	DNGD33031988																																						
授業科目/(英語名)	歯科矯正学及び同実習/Orthodontics & Orthodontic Practice																																						
対象年次 4年生	講義形態 講義及び実習	教室 第1講義室, 臨床実習室4B																																					
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II																																						
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	講義: 吉田教明/nori@nagasaki-u.ac.jp /矯正医局 /TEL:095-819-7667/オフィスアワー: 不在時を除き毎週金曜日 17:00 以降 実習: 丸山陽市/ymaru@nagasaki-u.ac.jp /教員研究室 /TEL:095-819-7668 /オフィスアワー: 水曜日 16:30~18:00																																						
担当教員	吉田教明, 丸山陽市, 古賀義之, 佛坂齊社, 富永淳也, 森田幸子, 濱中僚, 西井康[非常勤講師], 大谷淳二[非常勤講師], 井口修一郎[非常勤講師]																																						
授業の概要及び位置づけ/授業到達目標/授業方法(学習指導法)	<p>授業の概要及び位置づけ: 講義では, 口腔・頭蓋・顔面領域における発生および成長発育の基礎知識を学び, 矯正治療の目的, 必要性, 臨床的意義を理解し, 異常に対する検査, 診断, 治療法を理解する。実習では, 矯正臨床に必要な基本的知識, 技術をタイポドント実習によるシミュレーションや模型実習を通して習得する。</p> <p>授業到達目標: 1) 発生, 成長発育の概念, 正常咬合が説明できる。 2) 不正咬合の種類, 原因, 病態, 予防法が説明できる。 3) 矯正治療の目的と意義を理解し, 矯正診断と治療の流れ, 治療法が説明できる。 4) 関連する力学が説明できる。 5) 装置の種類と使用目的, 構造, 作用機序, 生体反応, 適応症および製作方法が説明できる。 6) 矯正装置を製作できる。 7) 矯正装置に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p> <p>授業方法(学習指導法): 講義, 実習, e-Learning 講義では, 授業内容についてのプリントを逐次配布する。学生の理解度を確認するため小テスト(pre, post)を逐次実施する。e-Learning を利用して, 学生の予習・復習による自主的学習意欲を高めるため講義内容および実習資料を公開する。</p>																																						
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)	<p>概要: はじめに講義にて, 矯正治療の歴史的流れを理解し, 正常咬合とは何か, 顔貌の不正, 顎骨の異常形態および不正咬合の検査法, 診断法を理解する。同時に今後の矯正歯科学の新しい治療法について内容を深める。実習では, 各課題で作成する装置の構造, 機能, 理論, 適応症などについて, 配布した実習書に従って講義と実習を行い, 矯正装置の製作を行う。</p> <p>授業内容</p> <table border="0"> <tr> <td>1回目:【講義 1】歯科矯正学の歴史, 成長期の矯正治療</td> <td>22 回目:【講義 16】矯正治療に必要な力学</td> </tr> <tr> <td>2 回目:【講義 2】歯列と咬合と口腔機能の発育 咬合概論・正常咬合</td> <td>23・24 回目:【実習 4】舌側弧線装置(3)</td> </tr> <tr> <td>3 回目:【講義 3】成長発育概論</td> <td>25 回目:【講義 17】口唇・口蓋裂の矯正治療</td> </tr> <tr> <td>4 回目:【講義 4】不正咬合・不正咬合の分類</td> <td>26・27 回目:【実習 5】舌側弧線装置(4)</td> </tr> <tr> <td>5 回目:【講義 5】診断学(1)</td> <td>28 回目:【講義 18】顎関節症の矯正治療</td> </tr> <tr> <td>6 回目:【講義 6】診断学(2)</td> <td>29・30 回目:【実習 6】エッジワイズ装置(1)</td> </tr> <tr> <td>7 回目:【講義 7】不正咬合の原因と予防</td> <td>31 回目:【講義 19】不正咬合の治療(1)</td> </tr> <tr> <td>8 回目:【講義 8】矯正力と矯正治療に伴う生体反応</td> <td>32・33 回目:【実習 7】エッジワイズ装置(2)</td> </tr> <tr> <td>9 回目:【講義 9】セファロ分析(1)</td> <td>34 回目:【講義 20】不正咬合の治療(2)</td> </tr> <tr> <td>10 回目:【講義 10】セファロ分析(2)</td> <td>35・36 回目:【実習 8】エッジワイズ装置(3)</td> </tr> <tr> <td>11 回目:【講義 11】セファロ分析(3)</td> <td>37・38 回目:【実習 9】エッジワイズ装置(4)</td> </tr> <tr> <td>12 回目:【講義 12】機能的顎矯正装置</td> <td>39・40 回目:【実習 10】機能的矯正装置(1)</td> </tr> <tr> <td>13 回目:【講義 13】矯正治療における固定の考え方</td> <td>41 回目:【講義 21】まとめ</td> </tr> <tr> <td>14・15 回目:【実習 1】自在鑲着, 線屈曲</td> <td>42・43 回目:【実習 11】機能的矯正装置(2)</td> </tr> <tr> <td>16 回目:【講義 14】抜歯の考え方</td> <td>44 回目:【講義 22】顎変形症の矯正治療</td> </tr> <tr> <td>17・18 回目:【実習 2】:不正咬合作成, 舌側弧線装置(1)</td> <td>45 回目:【講義 23】インプラント矯正</td> </tr> <tr> <td>19 回目:【講義 15】固定式矯正装置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20・21 回目:【実習 3】舌側弧線装置(2)</td> <td></td> </tr> </table>			1回目:【講義 1】歯科矯正学の歴史, 成長期の矯正治療	22 回目:【講義 16】矯正治療に必要な力学	2 回目:【講義 2】歯列と咬合と口腔機能の発育 咬合概論・正常咬合	23・24 回目:【実習 4】舌側弧線装置(3)	3 回目:【講義 3】成長発育概論	25 回目:【講義 17】口唇・口蓋裂の矯正治療	4 回目:【講義 4】不正咬合・不正咬合の分類	26・27 回目:【実習 5】舌側弧線装置(4)	5 回目:【講義 5】診断学(1)	28 回目:【講義 18】顎関節症の矯正治療	6 回目:【講義 6】診断学(2)	29・30 回目:【実習 6】エッジワイズ装置(1)	7 回目:【講義 7】不正咬合の原因と予防	31 回目:【講義 19】不正咬合の治療(1)	8 回目:【講義 8】矯正力と矯正治療に伴う生体反応	32・33 回目:【実習 7】エッジワイズ装置(2)	9 回目:【講義 9】セファロ分析(1)	34 回目:【講義 20】不正咬合の治療(2)	10 回目:【講義 10】セファロ分析(2)	35・36 回目:【実習 8】エッジワイズ装置(3)	11 回目:【講義 11】セファロ分析(3)	37・38 回目:【実習 9】エッジワイズ装置(4)	12 回目:【講義 12】機能的顎矯正装置	39・40 回目:【実習 10】機能的矯正装置(1)	13 回目:【講義 13】矯正治療における固定の考え方	41 回目:【講義 21】まとめ	14・15 回目:【実習 1】自在鑲着, 線屈曲	42・43 回目:【実習 11】機能的矯正装置(2)	16 回目:【講義 14】抜歯の考え方	44 回目:【講義 22】顎変形症の矯正治療	17・18 回目:【実習 2】:不正咬合作成, 舌側弧線装置(1)	45 回目:【講義 23】インプラント矯正	19 回目:【講義 15】固定式矯正装置		20・21 回目:【実習 3】舌側弧線装置(2)	
1回目:【講義 1】歯科矯正学の歴史, 成長期の矯正治療	22 回目:【講義 16】矯正治療に必要な力学																																						
2 回目:【講義 2】歯列と咬合と口腔機能の発育 咬合概論・正常咬合	23・24 回目:【実習 4】舌側弧線装置(3)																																						
3 回目:【講義 3】成長発育概論	25 回目:【講義 17】口唇・口蓋裂の矯正治療																																						
4 回目:【講義 4】不正咬合・不正咬合の分類	26・27 回目:【実習 5】舌側弧線装置(4)																																						
5 回目:【講義 5】診断学(1)	28 回目:【講義 18】顎関節症の矯正治療																																						
6 回目:【講義 6】診断学(2)	29・30 回目:【実習 6】エッジワイズ装置(1)																																						
7 回目:【講義 7】不正咬合の原因と予防	31 回目:【講義 19】不正咬合の治療(1)																																						
8 回目:【講義 8】矯正力と矯正治療に伴う生体反応	32・33 回目:【実習 7】エッジワイズ装置(2)																																						
9 回目:【講義 9】セファロ分析(1)	34 回目:【講義 20】不正咬合の治療(2)																																						
10 回目:【講義 10】セファロ分析(2)	35・36 回目:【実習 8】エッジワイズ装置(3)																																						
11 回目:【講義 11】セファロ分析(3)	37・38 回目:【実習 9】エッジワイズ装置(4)																																						
12 回目:【講義 12】機能的顎矯正装置	39・40 回目:【実習 10】機能的矯正装置(1)																																						
13 回目:【講義 13】矯正治療における固定の考え方	41 回目:【講義 21】まとめ																																						
14・15 回目:【実習 1】自在鑲着, 線屈曲	42・43 回目:【実習 11】機能的矯正装置(2)																																						
16 回目:【講義 14】抜歯の考え方	44 回目:【講義 22】顎変形症の矯正治療																																						
17・18 回目:【実習 2】:不正咬合作成, 舌側弧線装置(1)	45 回目:【講義 23】インプラント矯正																																						
19 回目:【講義 15】固定式矯正装置																																							
20・21 回目:【実習 3】舌側弧線装置(2)																																							
キーワード	発生, 成長発育, 正常咬合, 不正咬合の種類, 原因, 矯正治療の目的, 矯正装置, 力学, 歯科矯正学 矯正装置 舌側弧線装置 エッジワイズ装置 機能的矯正装置																																						
教科書・教材・参考書	教科書: 歯科矯正学(第5版), 医歯薬出版, 相馬邦道, 後藤滋巳他編 参考書: 歯科矯正マニュアル, 南山堂, 横宏太郎他編 プロフィットの現代歯科矯正学, クインテッセンス出版, 歯科矯正学実習書: 鈴木祥井/医歯薬出版 実習書を配布し, e-Learning にて実習書, 講義での画像, 実習デモの動画を提供する。																																						
成績評価の方法・基準等	講義の評価と実習の評価で行う。いずれも 60 点以上のものを合格とする。講義の評価は, 定期試験時の筆記試験で行い, LACS のテストの成績は講義の成績評価の参考とする。実習の評価は, 各課題の製作物評価(40点), 定期試験時の筆記試験(50点), LACS でのオンラインテスト(10点)により総合評価を行う。																																						
受講要件(履修条件)	定期試験は, 講義の評価と実習の評価ともに本試験, 再試験とする。出席率は学部規則に従って評価する。3/4 以上の出席で受験資格を得る。追試験, 再試験は学部規則の範囲で行う。																																						
備考(学生へのメッセージ)	講義の進行と実習内容を同調させるために, 前半において講義を集中的に行うので予習復習が必要。実習では実習書を各自印刷して持参すること。実習内容は前日までに e-learning による予習を行い, LACS で実習デモの動画を必ず閲覧すること。LACS で連絡事項を掲示する。																																						

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	担当者	教室
1回	4	2	月	I	【講義1】 講義歯科矯正学の歴史、成長期の矯正治療 矯正治療の目的、概念	吉田	第1講義室
2回	4	2	月	II	【講義2】 歯列と咬合と口腔機能の発育 咬合概論・正常咬合	吉田	第1講義室
3回	4	3	火	I	【講義3】 成長発育概論 成長発育のパターン・骨の成長様式 脳頭蓋、上下顎骨の成長発育	濱中	第1講義室
4回	4	9	月	I	【講義4】 不正咬合・不正咬合の分類 個々の歯の位置異常、咬合関係の異常、アングルの分類法	森田	第1講義室
5回	4	9	月	II	【講義5】 診断学 (1) 形態的診断	富永	第1講義室
6回	4	10	火	I	【講義6】 診断学 (2) 機能的診断	古賀	第1講義室
7回	4	16	月	I	【講義7】 不正咬合の原因と予防 不正咬合の原因論、不良習癖	富永	第1講義室
8回	4	16	月	II	【講義8】 矯正力と矯正治療に伴う生体反応 矯正力の種類、歯の移動様式、矯正力と歯周組織の組織変化	濱中	第1講義室
9回	4	17	火	I	【講義9】 セファロ分析 (1) 頭部X線規格写真分析法	佛坂	第1講義室
10回	4	23	月	I	【講義10】 セファロ分析 (2) 頭部X線規格写真の計測分析	佛坂	臨床実習室 4 B
11回	4	23	月	II	【講義11】 セファロ分析 (3) 頭部X線規格写真の計測分析	佛坂	臨床実習室 4 B
12回	4	24	火	I	【講義12】 機能的顎矯正装置 ヨーロッパにおける機能的矯正装置の発達 床矯正装置、拡大装置、保定装置	森田	第1講義室
13回	5	1	火	I	【講義13】 矯正治療における固定の考え方 固定の定義、分類	吉田	第1講義室
14回	5	7	月	I	【実習1】 自在鑲着、線屈曲	丸山	臨床実習室 4 B
15回	5	7	月	II			
16回	5	8	火	I	【講義14】 抜歯の考え方 抜歯の適応症、抜歯の部位	吉田	第1講義室
17回	5	14	月	I	【実習2】 不正咬合作成、舌側弧線装置(1)	丸山	臨床実習室 4 B
18回	5	14	月	II			
19回	5	15	火	I	【講義15】 固定式矯正装置 エッジワイズ矯正装置、その他の矯正装置	吉田	第1講義室
20回	5	21	月	I	【実習3】 舌側弧線装置(3)	丸山	臨床実習室 4 B
21回	5	21	月	II			
22回	5	22	火	I	【講義16】 矯正治療に必要な力学	古賀	第1講義室

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	担当者	教室
23回	5	28	月	I	【実習4】舌側弧線装置(3)	丸山	臨床実習室4B
24回	5	28	月	II			
25回	5	29	火	I	【講義17】口唇・口蓋裂の矯正治療	森田	第1講義室
26回	6	4	月	I	【実習5】舌側弧線装置(4)	丸山	臨床実習室4B
27回	6	4	月	II			
28回	6	5	火	I	【講義18】顎関節症の矯正治療	古賀	第1講義室
29回	6	11	月	I	【実習6】エッジワイズ装置(1)	丸山	臨床実習室4B
30回	6	11	月	II			
31回	6	12	火	I	【講義19】不正咬合の治療(1)	吉田	第1講義室
32回	6	18	月	I	【実習7】エッジワイズ装置(2)	丸山	臨床実習室4B
33回	6	18	月	II			
34回	6	19	月	I	【講義20】不正咬合の治療(2)	吉田	第1講義室
35回	6	25	月	I	【実習8】エッジワイズ装置(3)	丸山	臨床実習室4B
36回	6	25	月	II			
37回	7	2	月	I	【実習9】エッジワイズ装置(4)	丸山	臨床実習室4B
38回	7	2	月	II			
39回	7	9	月	I	【実習10】機能的矯正装置(1)	丸山	臨床実習室4B
40回	7	9	月	II			
41回	7	10	火	I	【講義21】まとめ	吉田	第1講義室
42回	7	17	火	I	【実習11】機能的矯正装置(2)	丸山	臨床実習室4B
43回	7	17	火	II			
44回	7	23	月	III	【講義22】顎変形症の矯正治療	西井	第1講義室
45回	7	23	月	IV	【講義23】インプラント矯正	大谷	第1講義室

※6月26日(火)I校時,7月3日(火)I校時は休講

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 水・II～IV	必修選択 必修	単位数 3
科目番号	25034324		
科目ナンバリング・コード	DNGD33041988		
授業科目名/(英語名)	小児歯科学/(Pediatric Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・グループワーク	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論 II	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学教授室/095-819-7672(内 7672)/水曜日 12:00～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	釜崎陽子, 西口美由季, 日高聖, 近藤好夫, 西俣はるか, 佐藤恭子(臨床教授) 田上直美(特殊歯科), 佐々木康成(神奈川県立子ども医療センター歯科), 新谷誠康(東京歯科大学)		
授業の概要及び位置づけ 小児の口腔の健康を維持し, 健全な永久歯列を育成するために必要な知識, 技能, 態度を習得する。 小児と成人の相違に重点を置き, 小児の特殊性を理解する。			
授業到達目標 歯学教育コアカリキュラムの関連項目(H28 改訂版) E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 ①歯の発生, 発育および交換の過程と変化を説明できる。 ②歯種別の形態と特徴を説明できる。③遺伝的な歯の形成異常を説明できる。④乳歯(乳歯, 幼若永久歯を含む)の硬組織の構造, 機能および構成成分を説明できる。 E-4-2) 小児の歯科治療 ①乳歯と幼若永久歯のう蝕の特徴と予防法を説明できる。 ②乳歯と幼若永久歯のう蝕の診察, 検査と診断を説明できる。 ③乳歯と幼若永久歯の歯冠修復の目的と種類, 適応症, 手順と留意点を説明できる。④歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の診察, 検査と診断を説明できる。 ⑤乳歯と根未完成永久歯の歯髄炎・根尖歯周組織疾患の処置法の種類と適応症, 手順と留意点および予後を説明できる。⑥小児の歯の外傷・粘膜疾患の診察, 検査と診断および処置法と予後を説明できる。 ⑦咬合誘導の概念を説明できる。 ⑧保険処置の目的と種類, 適応症および留意点を説明できる。 ⑨小児患者の対応について説明できる。 ⑩小児の虐待の徴候と対応について説明できる。 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ②代表的医科疾患・病態および歯科診療との関連について説明できる。 ③医科疾患合併患者の歯科治療時の注意点を説明できる。			
授業方法(学習指導法) 講義, 実習, 調べ学習など			
授業内容 1. 小児歯科概論 小児歯科の意義と目的 2. 小児の心身発育 成長概論, 身体発育の特徴, 精神的発育, 口腔機能の発達, 評価法 3. 頭蓋顔面顎の発育と異常 頭蓋の発育, 顎の発育 4. 歯の発育と異常 歯の形成, 歯の形成障害, 歯の異常, 歯の萌出と異常 5. 歯列咬合の発育と異常 発育段階の分類, 歯列および咬合の発育異常 6. 咬合誘導と保険 意義と目的, 診査と診断, 保険, 動的咬合誘導法, 口腔習癖と処置 7. 乳歯, 幼若永久歯の特徴 乳歯の形態と組織, 幼若永久歯の形態と組織 8. 小児の齲蝕と予防 乳歯や幼若永久歯の齲蝕, 心身に及ぼす影響, 口腔衛生指導, 薬物応用法, 裂溝填塞法 9. 小児の歯周疾患 健全な歯周組織, 小児歯周疾患の種類と特徴 10. 口腔管理計画 診査と診断, 診療計画, 患者指導, 定期健診 11. 小児の歯冠修復 乳歯の歯冠修復, 幼若永久歯の歯冠修復 12. 小児の歯内療法 乳歯歯髄炎の診査と診断, 乳歯歯髄炎の処置法, 幼若永久歯の歯内療法 13. 小児の歯の外傷 診査と診断, 外傷の処置法, 外傷の影響, 小児の虐待とその対応 14. 小児の外科処置, 粘膜疾患 拔牙, 顎及び口腔軟組織の異常と疾患の処置, 薬物療法 15. 心身障害児の歯科的対応 定義と口腔管理の問題点, 種類と口腔所見, 歯科的対応 16. 小児疾患と歯科診療 各種全身疾患に関するグループ学習 特別講義 新谷誠康(非常勤講師) 歯質の形成障害 特別講義 佐々木康成(非常勤講師) 唇顎口蓋裂児の小児歯科 特別講義 佐々木 洋(学外講師) 口から育つこころと身体 特別講義 嘉ノ海龍三(学外講師) 小児歯科医に必要な歯科矯正学の知識と咬合誘導の実践 特別講義 星野倫範(学外講師) 未定			
キーワード	小児, 成長発達, 口腔機能, 齲蝕, 咬合, 外傷		
教科書・教材・参考書	教科書: 小児歯科学(永末書店) 参考書: 新小児歯科学(医歯薬出版), 外傷歯の診断と治療(月星光博, クインテッセンス出版) 小児歯科保健新書(永末書店), Pediatric Dentistry 5th Ed (Pinkham, W.B.Saunders 2013), Pediatric Dentistry 3rd Ed, (Wiley-Blackwell 2017)		
成績評価の方法・基準等	1.小テストを3-4 回行い, 成績に反映させる。 2.授業時に Smart Clicker で行うプレ, ポストアンケートは成績の評価としては用いない。 3.講義終了後, 筆記試験を行い, 成績評価とする。原則として答えは返却する。 4.授業への積極的な参加, レポートなども全体の20%以内を限度として, 評価対象とする。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
備考(学生へのメッセージ)	水曜日 II～IV校時に小児歯科学実習と同時に行う。日程表に教科書の対応ページを示したので, 予習しておくこと。講義予定, 担当者は未定なので, 詳細は追って連絡します。		

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 水・II～IV	必修選択 必修	単位数 3
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034324 DNGD33041988 小児歯科学実習/(Pediatric Dentistry Practice)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 第2講義室, 実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 藤原 卓/takufuji@nagasaki-u.ac.jp/小児歯科学教授室/095-819-7672(内7672)/水曜日12:00～13:00			
担当教員(オム ニバス科目等)	釜崎陽子, 西口美由季, 日高聖, *近藤好夫, 西俣はるか, 今村圭吾(TA) 田上直美(特殊歯科), 佐藤恭子(臨床教授)		
授業の概要及び位置づけ// (500文字) マネキン, 模型上で小児の修復, 生活歯髄切断, 保隙装置製作等を行い, その基礎技術, 知識を習得する。			
授業到達目標 一般目標(GIO) 小児歯科診療に必要な基本的技能, 知識, 態度をマネキン, 模型を用いて習得する。 行動目標(SBOs) 1. マネキン上でラバーダム防湿ができる。 2. 模型上で乳歯の窩洞形成と支台歯形成ができる。 3. 模型上で既製金属冠が作成できる。 4. 模型上で乳歯のフィッシャーシーラントができる。 5. 模型上で乳歯の生活歯髄切断ができる。 6. 乳歯の歯型彫刻ができる。 7. 保隙装置の作成ができる。			
授業方法(学習指導法) 実習			
授業内容 1. 実習概説 実習の概説 2. 機材整備 模型や器材の配布, 点検 3. ラバーダム防湿法 マネキン, 模型上でのラバーダム防湿実習 4. 窩洞形成 マネキン, 模型上でコンポジットレジンI級窩洞, インレーII級窩洞を形成する 5. 乳歯既成金属冠 模型上で乳歯既製金属冠の支台歯形成, 適合調整を行う 6. フィッシャーシーラント 模型上で乳歯のフィッシャーシーラントを行う 7. 乳歯生活歯髄切断 模型上で乳歯の生活歯髄切断を行う 8. クラウンループ 模型上でクラウンループの作成を行う 9. 歯型彫刻 石膏棒を用いて, 乳歯の歯型彫刻を行う ○後期水曜日II～IV校時に小児歯科学の講義と実習を同時に行います。 ○日程はシラバス作成時時点では未定ですので, 後期授業開始時に追って連絡します。 また実習内容は, OSCEなどにより対応するために, シラバス作成後に変更する可能性があります。 実習日に, その日の実習項目に関する小テストを行うことがあります。 結果は成績に含めるので実習帳内容等を予習してくること。			
キーワード	乳歯, ラバーダム, 乳歯冠, 窩洞形成, 生活歯髄切断, クラウンループ		
教科書・教材・参考書	事前に実習帳を電子データで配布するので, 各人プリントアウトして用意すること。 指定の模型を購入し, 1回目に持参すること		
成績評価の方法・基準等	1. 実習開始前に毎回行う実習帳に関する小テスト結果(30%) 2. ステップ毎の作成物の採点 3. インストラクターの個人評価(最大20%まで)		
受講要件(履修条件)	実習は, 出席重視なので, 原則欠席は不可		
備考(学生へのメッセージ)	購入した実習模型を持参すること。 器材などは貸与するが, 紛失, 破損のないよう注意すること(責任が明らかでない紛失, 破損などに対しては, 実費弁償を求める)。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教科書 ページ	教員名	教室
1回	10	3	水	II～IV	小児歯科概論 小児の心身発育	1- 9-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
2回	10	10	水	II～IV	頭蓋顔面顎の発育と異常 口腔機能の発達	39-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
3回	10	17	水	II～IV	乳歯, 幼若永久歯の特徴 小児の歯冠修復	115- 201-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
4回	10	24	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
5回	10	31	水	II～IV	歯の発育と異常 歯列咬合の発育と異常	57- 87-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
6回	11	7	水	II～IV	咬合誘導と保隙 小児の齶蝕と予防	313- 183-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
7回	11	14	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
8回	11	21	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
9回	11	28	水	II～IV	小児の歯周疾患 小児の外科的処置, 粘膜疾患	145- 261- 279-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
10回	12	5	水	II～IV	小児の歯内療法 心身障害児の歯科診療	227- 365-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
11回	12	12	水	II～IV	小児の歯の外傷 小児の虐待	293- 411-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
12回	12	19	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B
13回	12	26	水	II～IV	口腔管理計画	161- 173-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
14回	1	9	水	II～IV	小児疾患と歯科診療	383-	未定	第2講義室・ 臨床実習室4B
15回	1	16	水	II～IV	実習		複数教員	第2講義室・ 臨床実習室4B

シラバス作成時点では詳細は未定、授業開始時に追って指示する
講義、実習の日程はシラバス作製時には未確定であり、学外講師の特別講義
の日程も含めて後期授業開始時に改めて連絡する。

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 火・II	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034307		
科目ナンバリング・コード	DNGD33051984		
授業科目名/(英語名)	保存修復学/ (Operative Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	久保至誠/kubo@nagasaki-u.ac.jp/病院8階保存修復学部門准教授室/095-819-7677(内7677)/16:30~17:30		
担当教員(オムニバス科目等)	久保至誠、平曜輔、介田圭、江越貴文		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯の硬組織疾患に対する診査(検査)、診断、治療、予防、管理(維持)の原理、原則を学ぶ。予防、健康増進と関連した早期発見、早期管理およびMI Dentistry の概念を理解する。歯質欠損に対するMI概念を背景とした歯冠修復処置の臨床的意義と方法を理解する。歯冠修復の臨床的意義を説明できる。</p>			
授業到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1.う蝕その他の歯の硬組織疾患 (tooth wear (酸蝕症、咬耗、摩耗等)、生活歯の変色、象牙質知覚過敏症を含む)の病因と病態および症状、検査法、診断及び処置法(再石灰化療法を含む)を説明できる。 2.Minimal Intervention <MI>に基づく歯科治療の意義、臨床的対応を説明できる。 3.修復材料とその取扱い、修復法の適応を説明できる。 4.修復に必要な前処置の目的と意義を説明できる。 5.歯髄保護の意義、種類と方法を説明できる。 6.窩洞形成の意義と方法を説明できる。 7.仮封の意義、種類及び特徴を説明できる。 8.修復後の管理の目的と方法を説明できる。 			
授業方法(学習指導法)			
教科書を基本に、スライドや板書での講義と必要に応じてプリントを配付する。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 序論、保存修復学の目的と変遷、歯の構造、齲蝕 2 回目 検査、診断、治療方針、診療設備、回転切削器械、回転切削器具、レーザー 3 回目 診察姿勢、器具の持ち方、滅菌・消毒、感染予防対策、齲蝕のリスクファクター、齲蝕の識別と処置法 4 回目 齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化、窩洞の分類、名称、具備条件 5 回目 歯髄障害・歯髄保護、修復材料の所要性質 6 回目 修復法の種類、特徴、適応、修復物の形態と面の性質、除痛法、隔壁法、術野隔壁、歯肉排除法、歯間分離法 7 回目 レジン(1):性質、種類、特色、組成、フィラー、硬化反応 8 回目 レジン(2):歯質接着、光重合、操作法、術後経過 9 回目 審美歯科:患者さんの生活の質を高めるため、審美的観点からの歯科的対応も必要 10 回目 メタルインレー修復(1):特色、合金、適応症、窩洞形成、印象採得、仮封、間接法、模型 11 回目 メタルインレー修復(2):ろう型形成、埋没、鋳造、研磨、試適、合着 12 回目 コンポジットレジンインレー修復、セラミックインレー修復、CAD/CAM 13 回目 合着・接着用セメント、ラミネートベニア修復 14 回目 グラスアイオノマーセメント修復、アマルガム修復、高齢者の保存修復 15 回目 補修修復、カリオロジー、EBM、MI Dentistry、アンケート 			
キーワード	硬組織疾患、予防、診査、診断、処置、管理		
教科書・教材・参考書	教科書:保存修復学21(第五版)(永末書店) 参考書:保存修復クリニカルガイド(第二版)(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う(再試までとする)。		
受講要件(履修条件)	口腔生命科学各論(基礎科目)の復習を必要に応じて各自で行う。		
備考(学生へのメッセージ)	歯質欠損に対する歯冠修復の臨床的意義と方法を理解する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	火	II	序論 保存修復学の目的と変遷、歯の構造 齲蝕	久保	第1講義室
2回	4	10	火	II	検査、診断、治療方針 診療設備、回転切削器械、回転切削器具、レーザー	江越	第1講義室
3回	4	17	火	II	診療姿勢、器具の持ち方、滅菌・消毒、感染予防対策 齲蝕のリスクファクター、齲蝕の識別と処置法	介田	第1講義室
4回	4	24	火	II	齲蝕以外の硬組織疾患と加齢変化 窩洞の分類、名称、具備条件	平	第1講義室
5回	5	1	火	II	歯髄障害・歯髄保護 修復材料の所要性質	介田	第1講義室
6回	5	8	火	II	修復法の種類、特徴、適応 修復物の形態と面の性質 除痛法、隔壁法、術野隔壁、歯肉排除法、歯間分離法	久保	第1講義室
7回	5	15	火	II	レジン(1): 性質、種類、特色、組成、フィラー、硬化反応	久保	第1講義室
8回	5	22	火	II	レジン(2): 歯質接着、光重合、操作法、術後経過	久保	第1講義室
9回	5	29	火	II	審美歯科: 患者さんの生活の質を高めるため、審美的観点からの歯科的対応も必要	横田	第1講義室
10回	6	5	火	II	メタルインレー修復(1): 特色、合金、適応症、窩洞形成、印象採得、仮封、間接法、模型	平	第1講義室
11回	6	12	火	II	メタルインレー修復(2): ろう型形成、埋没、鋳造、研磨、試適、合着	平	第1講義室
12回	6	19	火	II	コンポジットレジンインレー修復 セラミックインレー修復 CAD/CAM	平	第1講義室
13回	6	26	火	II	合着・接着用セメント ラミネートベニア修復	平	第1講義室
14回	7	3	火	II	ガラスイオノマーセメント修復 アマルガム修復 高齢者の保存修復	平	第1講義室
15回	7	10	火	II	補修修復 カリオロジー、EBM、MI Dentistry、アンケート	久保	第1講義室

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 火・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25034308		
科目ナンバリング・コード	DNGD33061984		
授業科目名/(英語名)	保存修復学実習/ (Practice of Operative Dentistry)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	久保至誠/kubo@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階保存修復学部門准教授室/095-819-7677(内 7677)/16:30～17:30		
担当教員(オムニバス科目等)	久保至誠、平曜輔、介田圭、江越貴文		
授業の概要及び位置づけ			
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎実習は、講義において説明された学理を理解するために行われる。 ・マネキンを用いるが、実際に患者さんを治療している状態を想定し、正しい治療姿勢ならびに技術の修得を図る。 ・病んでいる患者さんを診るにあたっての心構えなどを身につける。 			
授業到達目標			
講義で得た基本的知識を理解するために、歯科医師としての将来の姿を具体的にイメージしながら保存修復学に関する技能ならびに態度を涵養することを目指す。			
授業方法(学習指導法)			
原則、実習形式で行う。実習前にインストラクターによる各回の実習内容に関する説明を行う。口頭による説明では理解しにくい手技等については、実習前にインストラクターによるデモを行う。各ステップで受講生の理解度を確認するとともに、実習 15 回目の実技試験により総括的評価を行う。			
授業内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1 回目 器具整備、天然歯の選択、顎模型のチェック、ルーペの使用法 2 回目 歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去および覆髄 3 回目 プレパレーションプレートを用いた切削練習ならびに治療姿勢 4 回目 窩洞形成(1)Ⅱ級メタルインレー窩洞 5 回目 窩洞形成(2)Ⅱ級コンポジットレジン(セラミック)インレー窩洞 6 回目 窩洞形成(3)窩洞の完成 7 回目 CR 修復・Ⅴ級 8 回目 CR 修復・Ⅰ級、前回の CR 修復の研磨 9 回目 マルチレイヤーテクニックによる CR 修復・Ⅰ級、前回の CR 修復の研磨 10 回目 メタルインレー修復(実習で形成した窩洞の印象採得、模型作成)、前回の CR 修復の研磨 11 回目 CR 修復・Ⅲ級、前々回の CR 修復の研磨 12 回目 CR 修復・Ⅱ級、前回の CR 修復の研磨 13 回目 CR 修復・Ⅳ級、前回の CR 修復の研磨 14 回目 グラスアイオノマーセメント修復・歯頸部修復、前回の CR 修復の研磨 15 回目 前回のグラスアイオノマーセメント修復の研磨、総括(実技試験)、器具の点検・回収 			
キーワード	硬組織疾患修復法、各種修復材料、歯質保存的修復、歯髄保護		
教科書・教材・参考書	教科書: 講座で準備した実習帳 参考書: 保存修復学21(第五版) (永末書店)		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時の作品(作品毎に評価する(AからDまでの4段階、Dは不可)、実習態度、理解度などから判定する。 ・作品の点数のみならず、実習態度、理解しながら行っているかなども重要な判定基準である。 		
受講要件(履修条件)	出席 3/4 以上(原則として、やむを得ない場合を除き、欠席は認めない。)		
備考(学生へのメッセージ)	<ul style="list-style-type: none"> ・中等度齲蝕を有する天然歯(歯種不問)を数本準備しておく。 ・講義の進行と実習内容が同調しないので、十分な予習が必要である。 ・実習中に無断退室した場合、その回は未受講とする。 ・15 回目に行う実技試験を受けなかった場合、失格とする。 		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	3	火	Ⅲ～Ⅳ	器具整備、天然歯の選択、顎模型のチェック、ルーペの使用法 ・中等度齲蝕を有する天然歯を選択した後、顎模型のチェックを行う。 ・使用器具の名前を覚える。その際、類似の形態の物が多いので注意する。 ・歯科用ルーペの使用法を習得する。	久保、他	臨床実習室4B
2回	4	10	火	Ⅲ～Ⅳ	歯科用ハンドピースの把持法、罹患歯質の除去および覆髄 ・歯科用ハンドピースや器材の把持法を習得する。 ・齲蝕の進行状態(齲蝕円錐)を考慮しながら罹患歯質の除去を行う。 ・染色液による齲蝕象牙質の判定法を習得する。	久保、他	臨床実習室4B
3回	4	17	火	Ⅲ～Ⅳ	切削練習(プレパレーションプレート)、治療姿勢 ・プレパレーションプレートでタービン、マイクロモーターの操作に慣れる。 ・治療姿勢などを習得する。	介田、他	臨床実習室4B
4回	4	24	火	Ⅲ～Ⅳ	窩洞形成(1) ・技術向上を図るため、スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞の形成を行う。 ・治療姿勢、ポジショニングに注意すること。	久保、他	臨床実習室4B
5回	5	1	火	Ⅲ～Ⅳ	窩洞形成(2) ・Ⅱ級コンポジットレジン(セラミック)インレー窩洞の形成を行う。 ・スライス式Ⅱ級メタルインレー窩洞形成との違いを習得する。	平、他	臨床実習室4B
6回	5	8	火	Ⅲ～Ⅳ	窩洞形成(3) ・上記2種の窩洞を完成させる。	平、他	臨床実習室4B
7回	5	15	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅴ級 ・接着性コンポジットレジン窩洞を形成後、光重合レジンで修復する。 ・接着性の意義、メカニズムを理解し、歯質保存の大切さを習得する。	介田、他	臨床実習室4B
8回	5	22	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅰ級 ・中心小窩の齲蝕が深部まで進行していると想定し、裏層を行う。 ・前回のCRⅤ級修復の仕上げ研磨を習得する。	江越、他	臨床実習室4B
9回	5	29	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅰ級(マルチレイヤーテクニック) ・マルチレイヤーテクニックを用いた審美修復法を習得する。 ・前回のCR修復Ⅰ級修復の仕上げ研磨を習得する。	久保、他	臨床実習室4B
10回	6	5	火	Ⅲ～Ⅳ	メタルインレー修復、印象採得、模型作製 ・メタルインレー作製法における各ステップについて解説する。 ・各自が形成したⅡ級メタルインレー窩洞で印象採得、模型作製を行う。	平、他	臨床実習室4B
11回	6	12	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅲ級 ・便宜拡大を唇側または口蓋側から行う方法を習得する。 ・前歯隣接面の修復に際し、セルロイド製隔壁を用いる方法を習得する。	江越、他	臨床実習室4B
12回	6	19	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅱ級 ・臼歯隣接面の修復に際し、マトリクス・リテーナーの使用法を習得する。 ・前回のCRⅢ級修復の隣接面における仕上げ研磨を習得する。	江越、他	臨床実習室4B
13回	6	26	火	Ⅲ～Ⅳ	CR修復Ⅳ級 ・前歯切縁隅角を含んだ窩洞をセルロイド隔壁を用いて修復する。 ・前回のCRⅡ級修復の仕上げ研磨を行う。	久保、他	臨床実習室4B
14回	7	3	火	Ⅲ～Ⅳ	グラスアイオノマーセメント修復 ・レジン添加型グラスアイオノマーセメントを用いて、歯頸部の修復を行う。 ・前回のCRⅣ級修復の仕上げ研磨を行う。	介田、他	臨床実習室4B
15回	7	10	火	Ⅲ～Ⅳ	総括、グラスアイオノマーセメント研磨、器具の点検、回収 ・総括的評価のため、実技試験を行う。 ・前回のグラスアイオノマーセメント修復の研磨を行う。 ・貸与器具であり、次年度の学生も使用するので、きれいに清掃して返却。	久保、他	臨床実習室4B

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 水・I	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034309		
科目ナンバリング・コード	DNGD33071984		
授業科目名/(英語名)	歯内治療学/ (Endodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)		科目分類 口腔生命科学各論II	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 山田志津香/shiduka@nagasaki-u.ac.jp/歯周歯内治療学分野准講師室/095-819-7682(内 7682)/月、火、金曜 17:00～18:00			
担当教員(オムニバス科目等)	山田志津香、柳口嘉治郎、庵原耕一郎(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
齶蝕等による炎症性病変が歯髄・根尖歯周組織まで波及した場合、歯髄の保存療法、抜髄、感染根管治療等が行われる。これらに関する理論的裏付けと基本的事項を十分に把握し、疾病の病態、検査(診査)、診断、処置、経過、管理に関する理解を深める。歯髄と根尖歯周組織に生じる疾患の具体的内容と実際の治療の進め方の基本を学習する。			
授業到達目標			
病因と病態を説明できる。症状、診断及び治療法を説明できる。根管充填の目的、方法を説明できる。救急処置の種類と方法を説明できる。偶発症について種類、処置及び予防法を説明できる。治療後の治癒機転と予後を説明できる。変色歯の原因、処置を説明できる。歯根吸収の原因、症状、診断及び処置を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
教科書とスライドを基本的に使用し、必要に応じてプリントを配付する。			
授業内容			
1 回目 序論: 歯内治療の歴史的背景・概略を学習 2 回目 対象疾患: 歯髄炎・根尖性歯周炎の病理組織学的所見と臨床症状 3 回目 特別講義: 歯痛の特徴と電気生理学的背景・意義 4 回目 検査(診査)、診断: 各種検査(診査)法、臨床診断名 5 回目 滅菌、消毒: 基本的概念、ユニバーサル・スタンダードプレコーション、器材の滅菌、手指・術野の消毒 6 回目 歯髄保存療法: 鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC 法、アペキシゲネーシス 7 回目 歯髄除去療法(1): 生活歯髄切断法、歯髄創傷治癒過程 8 回目 歯髄除去療法(2): 抜髄(1) 適応症、髄室開拓、根管長測定 9 回目 歯髄除去療法(3): 抜髄(2) 根管拡大・形成、根管充填、術後経過 10 回目 感染根管治療(1): 適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション 11 回目 感染根管治療(2): 根管消毒、根管充填、術後経過 12 回目 歯根吸収、漂白: 原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法 13 回目 偶発症、応急処置、外傷: 原因、検査(診査)、処置・対応 14 回目 外科的歯内治療、歯内一歯周疾患: 根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用 15 回目 (特別講義) 歯髄由来幹細胞を用いた歯髄再生について(仮題)			
キーワード	歯髄・根尖性歯周疾患、予防、診査、診断、処置、管理		
教科書・教材・参考書	教科書: 第三版 エンドドンテイクス21 (永末書店) 教科書: エンドドンテイクス21 歯内療法カラーアトラス(永末書店)		
成績評価の方法・基準等	定期試験時に筆記試験で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。受験資格、受験回数は学部規程に従う(再試までとする)。		
受講要件(履修条件)	口腔生命科学基礎科目の復習を各自行う。		
備考(学生へのメッセージ)	歯髄と根尖歯周組織に生じる疾患の概要と治療の進め方の基本を理解する。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	3	水	I	序論： 歯内治療の歴史的背景・概略を学習	山田	第2講義室
2回	10	10	水	I	対象疾患： 歯髄炎・根尖性歯周炎の病理組織学的所見と臨床症状	柳口	第2講義室
3回	10	17	水	I	特別講義：ビデオ使用予定 歯痛の特徴と電気生理学的背景・意義	山田	第2講義室
4回	10	24	水	I	検査(診査)、診断： 各種検査(診査)法、臨床診断名	山田	第2講義室
5回	10	31	水	I	滅菌、消毒： 基本的概念、ユニバーサル・スタンダードプレコーション、器材の滅菌、 手指・術野の消毒	山田	第2講義室
6回	11	7	水	I	歯髄保存療法： 鎮痛消炎療法、間接・直接覆髄法、IPC法、アペキシゲネーシス	山田	第2講義室
7回	11	14	水	I	歯髄除去療法(1)： 生活歯髄切断法、歯髄創傷治療過程	山田	第2講義室
8回	11	21	水	I	歯髄除去療法(2)： 抜髄(1)適応症、髄室開拓、根管長測定	柳口	第2講義室
9回	11	28	水	I	歯髄除去療法(3)： 抜髄(2)根管拡大・形成、根管充填、術後経過	山田	第2講義室
10回	12	5	水	I	感染根管治療(1)： 適応症、根管内細菌、細菌検査、アペキシフィケーション	柳口	第2講義室
11回	12	12	水	I	感染根管治療(2)： 根管消毒、根管充填、術後経過	山田	第2講義室
12回	12	19	水	I	歯根吸収、漂白： 原因、特徴、検査(診査)、外部吸収、内部吸収、処置、漂白法	山田	第2講義室
13回	12	26	水	I	偶発症、応急処置、外傷： 原因、検査(診査)、処置・対応	山田	第2講義室
14回	1	9	水	I	外科的歯内治療、歯内-歯周疾患： 根尖切除術、歯根分割法など、手術用顕微鏡の利用	山田	第2講義室
15回	1	16	水	I	特別講義 歯髄由来幹細胞を用いた歯髄再生について(仮題)	庵原	第2講義室

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 月・Ⅲ～Ⅳ(一部火・Ⅲ～Ⅳ)	必修選択 必修	単位数 1
科目番号 科目ナンバリング・コード 授業科目名/(英語名)	25034310 DNGD33081984 歯内治療学実習/(Endodontics practice)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 柳口嘉治郎/yanagi@nagasaki-u.ac.jp/歯周歯内治療学分野講師室/095-819-7682(内 7682)/実習後または木曜 16:30～17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	柳口嘉治郎 他 4 名		
授業の概要及び位置づけ 歯髄、根尖歯周組織疾患の対処法として抜髄、感染根管処置などが実施されているが、本実習では、講義で学ぶ理論を基礎として、実際に行われている処置法の技術的な項目について、抜去歯及び髓腔歯牙模型を用いて学び、理解することにある。			
授業到達目標 「歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断及び治療法を説明できる。根管充填の目的、時期及び方法を説明できる。」ことを到達目標とする。			
授業方法(学習指導法) 実習に先立って、視聴覚機材を利用して詳細なデモを行った後、抜去歯及び髓腔歯牙模型を用いた模型実習を行う。さらに歯内治療において不可欠なラバーダム防湿法や歯髄診断法に関しては、相互実習を行う。			
授業内容 1 回目 オリエンテーション、器具整備、植立模型作製 2 回目 髓腔開拓(上顎前歯・小臼歯)、ラバーダム防湿法 3 回目 髓腔開拓(上下顎大臼歯)、ラバーダム防湿法 4 回目 抜髄法Ⅰ(上顎前歯)、根管長測定 5 回目 抜髄法Ⅱ(上顎大臼歯) 6 回目 抜髄法Ⅲ(髓腔模型歯)、ラバーダム防湿法 7 回目 根管充填Ⅰ(髓腔模型歯)、歯髄診断法 8 回目 根管充填Ⅱ(上顎前歯・大臼歯)、歯髄診断法 9 回目 感染根管治療Ⅰ(髓腔模型歯) 10 回目 感染根管治療Ⅱ(下顎大臼歯)、歯髄診断法 11 回目 根管充填Ⅲ(髓腔模型歯)、細菌検査 12 回目 根管充填Ⅳ(下顎大臼歯) 13 回目 実技試験 14 回目 エックス線写真の読影、根管充填材の除去、隔壁法 15 回目 器具整備 *授業の日程及び順番が変更する可能性があります、その場合は事前に連絡します。			
キーワード	抜髄、感染根管治療、根管充填		
教科書・教材・参考書	当教室で作成した「歯内治療学実習帳」を配布 参考書:エンドドンティクス21(永松書店)		
成績評価の方法・基準等	実習の課題に対する積極的な取組状況 20%, 実技試験 50%, 一般ケース(根管充填の結果) 30%		
受講要件(履修条件)	実習の3/4以上出席している者		
備考(学生へのメッセージ)	植立模型用(上顎前歯・大臼歯、下顎大臼歯 各 1 本)、及び髓腔開拓練習用として天然歯を準備しておく。 実習の内容と講義とが同調しない場合があるので、実習帳をよく読んで内容を理解しておく。 実際の診療を想定して、清潔な白衣、マスクを着用して実習に望む。 ゴム手袋は事前に購入しておく。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	1	月	Ⅲ～Ⅳ	オリエンテーション・器具整備・植立模型作製 歯内実習用器具の貸し出し・点検 髓腔歯牙模型を顎模型に固定 天然歯の点検後、アクリルチューブによる植立模型の作製	教員5名	臨床実習室4B
2回	10	15	月	Ⅲ～Ⅳ	髓室開拓Ⅰ・ブローチ綿花・相互実習 髓腔歯牙模型を用いた上顎前歯・小臼歯の髓室開拓 ブローチ綿花の作製 ラバーダム防湿法	教員5名	臨床実習室4B
3回	10	22	月	Ⅲ～Ⅳ	髓室開拓Ⅱ・相互実習 髓腔歯牙模型を用いた上・下顎大臼歯の髓室開拓 ラバーダム防湿法	教員5名	臨床実習室4B
4回	10	29	月	Ⅲ～Ⅳ	抜髄法Ⅰ・根管長測定 植立模型を用いた上顎前歯の根管拡大・形成 電氣的根管長測定法	教員5名	臨床実習室4B
5回	11	5	月	Ⅲ～Ⅳ	抜髄法Ⅱ 植立模型を用いた上顎大臼歯の根管拡大・形成	教員5名	臨床実習室4B
6回	11	12	月	Ⅲ～Ⅳ	抜髄法Ⅲ・相互実習 髓腔模型歯を用いた上顎大臼歯の根管拡大・形成 ラバーダム防湿法	教員5名	臨床実習室4B
7回	11	19	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅰ・相互実習 髓腔模型歯を用いた上顎大臼歯の根管充填 歯髄診断法	教員5名	臨床実習室4B
8回	11	26	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅱ・相互実習 植立模型を用いた上顎前歯・大臼歯の根管充填 歯髄診断法	教員5名	臨床実習室4B
9回	12	3	月	Ⅲ～Ⅳ	感染根管治療Ⅰ 髓腔模型歯を用いた下顎大臼歯の根管拡大・形成	教員5名	臨床実習室4B
10回	12	10	月	Ⅲ～Ⅳ	感染根管治療Ⅱ・相互実習 植立模型を用いた下顎大臼歯の根管拡大・形成 歯髄診断法	教員5名	臨床実習室4B
11回	12	17	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅲ・細菌検査 髓腔模型歯を用いた下顎大臼歯の根管充填 細菌検査(デモのみ)	教員5名	臨床実習室4B
12回	1	7	月	Ⅲ～Ⅳ	根管充填Ⅳ 植立模型を用いた下顎大臼歯の根管充填	教員5名	臨床実習室4B
13回	1	21	月	Ⅲ～Ⅳ	実技試験 上顎小臼歯(髓腔模型歯)の根管形成・根管充填	教員5名	臨床実習室4B
14回	1	22	火	Ⅲ～Ⅳ	エックス線写真の読影・根管充填材の除去・隔壁法 GPソルベントを用いた根管充填材の除去 ベースセメントを用いた隔壁法	教員5名	臨床実習室4B
15回	1	28	月	Ⅲ～Ⅳ	器具整備 歯内実習用器具の点検・回収 顎模型の清掃と回収	教員5名	臨床実習室4B

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 水・I～II	必修選択 必修	単位数 1
科目番号	25034321		
科目ナンバリング・コード	DNGD33091989		
授業科目名/(英語名)	歯周病学/(Lecture of Periodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義形式	教室 第1講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論II	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp/長崎大学病院 8 階歯周歯内治療学分野教授室/095-819-7681(内 7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、鶴飼 孝、金子高士(非常勤講師)、吉永泰周(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
歯周病学と歯周治療学の理解を高める。歯周疾患の特徴を知り、その治療法について学ぶ。歯周組織の正常と異常、歯周疾患の分類、歯周疾患の原因、歯周基本治療、歯周外科、歯周再生治療、メンテナンスについての講義を行う。			
授業到達目標			
1.歯周組織の正常と異常の相違を説明できる。 2.臨床において歯周疾患を診断できる。 3.歯周疾患の原因を説明でき、またそれを講義担当者と討論できる。 4.歯周疾患の治療法を説明できる。 5.歯周疾患の予防法を説明できる。			
授業方法(学習指導法)			
授業内容			
1 回目 総説・歯周組織の正常と異常 2 回目 歯周病の原因 3 回目 歯周組織検査(1) 4 回目 歯周組織検査(2)・スケーリング・ルートプレーニング(1) 5 回目 プラークコントロール(1) 6 回目 プラークコントロール(2) 7 回目 スケーリング・ルートプレーニング(2) 8 回目 咬合調整・固定 9 回目 歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患 10 回目 歯周病と全身疾患・リスクファクター 11 回目 歯内歯周病変・根分岐部の処置 12 回目 歯周外科(1) 13 回目 歯周外科(2) 14 回目 MTM・歯周補綴・メンテナンス 15 回目 総括			
キーワード	歯周病、歯周疾患、歯周治療		
教科書・教材・参考書	教科書:特に使用しない。 参考書:授業開始時に適当なものを紹介する。		
成績評価の方法・基準等	学期末に選択または記述式の試験を行い評価する。		
受講要件(履修条件)	開講された講義の3分の2以上に出席している者		
備考(学生へのメッセージ)	歯周病学は歯科医療の根幹をなし、また歯科における再生医療の中核ともいえる分野である。また近年の学問領域の発展は目覚ましい。生物学に基づいた最新の歯周病学を修得するためにも基礎科目(口腔領域)の知識は必須であるので、復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	水	I～II	総説・歯周組織の正常と異常	吉村	第1講義室
2回	4	11	水	I～II	歯周病の原因	鶴飼	第1講義室
3回	4	18	水	I～II	歯周組織検査(1)	吉村	第1講義室
4回	4	25	水	I～II	歯周組織検査(2)・スケーリング・ルートプレーニング(1)	吉村	第1講義室
5回	5	2	水	I～II	プラークコントロール(1)	鶴飼	第1講義室
6回	5	9	水	I～II	プラークコントロール(2)	鶴飼	第1講義室
7回	5	16	水	I～II	スケーリング・ルートプレーニング(2)	吉村	第1講義室
8回	5	23	水	I～II	咬合調整・固定	金子	第1講義室
9回	5	30	水	I～II	歯周疾患の分類・特殊な歯周疾患	吉永	第1講義室
10回	6	6	水	I～II	歯周病と全身疾患・リスクファクター	金子	第1講義室
11回	6	13	水	I～II	歯内歯周病変・根分岐部の処置	吉永・吉村	第1講義室
12回	6	20	水	I～II	歯周外科(1)	吉村	第1講義室
13回	6	27	水	I～II	歯周外科(2)	吉村	第1講義室
14回	7	4	水	I～II	MTM・歯周補綴・メンテナンス	鶴飼	第1講義室
15回	7	11	水	I～II	総括	吉村	第1講義室

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 水・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 1.5
科目番号	25034322		
科目ナンバリング・コード	DNGD33101989		
授業科目名/(英語名)	歯周病学実習/(Basic Training of Periodontology)		
対象年次 4年次	講義形態 実習形式	教室 第1講義室・臨床実習室 4B・スキルスラボセンター	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 吉村篤利/ayoshi@nagasaki-u.ac.jp /長崎大学病院8階歯周歯内治療学分野教室/095-819-7681(内7681)/17:00～19:00			
担当教員(オムニバス科目等)	吉村篤利、鶴飼 孝、尾崎幸生、白石千秋、山下泰徳		
授業の概要及び位置づけ 歯周病学の知識に基づいて、病因の解析、歯周疾患の診断・治療・予防に関する手技を修得する。			
授業到達目標 1.軽度の歯周疾患の治療方針を立案できる。 2.歯周組織診査を行い、病状を患者に説明できる。 3.適切な口腔清掃法を選択し、それを説明できる。 4.簡単なスクレーリング・ルートプレーニングができる。 5.模型上で暫間固定や歯周外科を行える。			
授業方法(学習指導法) 歯周組織の診査、歯周基本治療(口腔清掃指導、スクレーリング・ルートプレーニング、咬合調整)、歯周外科に関する実習を行う。			
授業内容 1回目 歯周組織検査 (1) 2回目 歯周組織検査 (2) 3回目 歯周組織検査 (3) 4回目 プラークコントロール・モチベーション (1) 5回目 プラークコントロール・モチベーション (2) 6回目 プラークコントロール・モチベーション (3) 7回目 スクレーリング・ルートプレーニング (1) 8回目 スクレーリング・ルートプレーニング (2) 9回目 スクレーリング・ルートプレーニング (3) 10回目 スクレーリング・ルートプレーニング (4) 11回目 咬合診査と咬合調整 (1) 12回目 咬合診査と咬合調整 (2) 13回目 暫間固定 14回目 歯周外科 (1) 15回目 歯周外科 (2)			
キーワード	歯周治療学		
教科書・教材・参考書	教科書は特に使用しない。参考書は授業開始時に適当なものを紹介する。		
成績評価の方法・基準等	各実習項目の成果とレポートを参考に判定する。		
受講要件(履修条件)	開講された実習の4分の3以上出席している者。		
備考(学生へのメッセージ)	歯周治療は歯科医療の根幹をなす重要な分野であり、歯周治療の習熟なしでは歯科医療の成功はなしえない。本実習では、歯周治療の基本である口腔清掃指導、SRP などの処置法を修得する。実習に先立って行われる歯周病学の講義を復習しておくこと。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	4	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織検査 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
2回	4	11	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織検査 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
3回	4	18	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周組織検査 (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
4回	4	25	水	Ⅲ～Ⅳ	プラークコントロール・モチベーション (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
5回	5	2	水	Ⅲ～Ⅳ	プラークコントロール・モチベーション (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
6回	5	9	水	Ⅲ～Ⅳ	プラークコントロール・モチベーション (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
7回	5	16	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
8回	5	23	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
9回	5	30	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (3)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
10回	6	6	水	Ⅲ～Ⅳ	スケーリング・ルートプレーニング (4)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
11回	6	13	水	Ⅲ～Ⅳ	咬合診査と咬合調整 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
12回	6	20	水	Ⅲ～Ⅳ	咬合診査と咬合調整 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
13回	6	27	水	Ⅲ～Ⅳ	暫間固定)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
14回	7	4	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周外科 (1)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ
15回	7	11	水	Ⅲ～Ⅳ	歯周外科 (2)	複数教員	臨床実習室4B スキルスラボ

年度 2018 学期 通年	曜日・校時 木・前Ⅱ～Ⅳ 後Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 4
科目番号	25034313		
科目ナンバリング・コード	DNGD33111985		
授業科目名/(英語名)	冠橋義歯学及び同実習/ (Fixed Prosthodontics)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 前期 講義室 6A、臨床実習室 4B 後期 第2講義室、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスマナー 澤瀬 隆/sawase@nagasaki-u.ac.jp/病院 8 階口腔インプラント学分野教授室/095-819-7685(内 7685)/8:00～8:50、12:10～13:00			
担当教員(オムニバス科目等)	澤瀬 隆、黒嶋伸一郎、吉田圭一、尾立哲郎、佐々木宗輝、稲葉菜緒、右藤友督、非常勤講師、他 TA		
授業の概要及び位置づけ			
<p>本科目は、冠橋義歯学のイントロであり、5年、6年へとその内容をより高度に、より臨床的にシフトさせながら卒業までの3年間かけてマスターしてもらう。中途にバリエーションとして設定されている CBT や OSCE にも対応できるように留意しており、国試への対策も念頭に置いている。また、必修化された1年間の卒業後研修にも、スムーズに移行できるように配慮している。最終学年では担当した患者のクラウンとブリッジは自分で製作しなければならない。そのためには知識のみならず、基本的手技の習得も必要である。</p>			
授業到達目標			
<p>一般目標は「実質欠損」と「歯の欠損」を中心に、歯冠修復(クラウン)及び欠損修復(ブリッジ)の臨床的意義と方法を理解するであり、到達目標はコアカリに含まれているクラウンの 11 項目、ブリッジの8項目である。実習では「修復法に関する模型上での基本操作ができる」、「支台装置の製作過程における基本的手技ができる」の2つを到達目標とする。</p>			
授業方法(学習指導法)			
講義と実習の進行を並行して行い、知識に基づく基本的手技をマスターする。			
授業内容	実習		
講義;対応するコアカリ項目 1:クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績;E-3-4)-(1) ① 2:咬合・咀嚼障害;E-3-4)-(1) ① 3:診察と診断と感染予防・治療を左右する因子;E-3-4)-(1) ① 4:クラウンブリッジの要件・クラウンの種類;E-3-4)-(1) ② 5:ブリッジの種類と構成・設計;E-3-4)-(1) ② 6:インフォームドコンセント・前処置;E-3-4)-(1) ①② 7:支台歯形成、支台築造;E-3-4)-(1) ③④ 8:印象採得・プロビジョナルレストレーション;E-3-4)-(1) ⑤⑥ 9:咬合採得・咬合器;E-3-4)-(1) ⑤⑦⑨ 10:患者情報の記録・作業模型の製作;E-3-4)-(1) ⑧ 11:ワックスパターン形成;E-3-4)-(1) ② 12:埋没・鋳造;E-3-4)-(1) ② 13:熱処理・研磨;E-3-4)-(1) ② 14:装着・術後管理・装着後に発生する問題とその対応;E-3-4)-(1) ⑩⑪⑫ 15:レジン前装冠・ハイブリッド型コンポジットレジンジャケット冠;E-3-4)-(1) ② 16:陶材焼付冠・連結法(p292);E-3-4)-(1) ② 17:CAD/CAM による製作・オールセラミック修復;E-3-4)-(1) ② 18:高齢者要介護者のクラウンブリッジ補綴;E-5-1)-①⑤	1:ドローイング・カービング 2:全部鋳造冠支台歯形成 3:レジン前装鋳造冠支台歯形成 4:築造窩洞形成・印象・ワックスアップ 5:クラウン精密印象、作業模型、咬合器付着 6:クラウンワックスアップ 7:クラウン埋没・鋳造・研磨 8:ブリッジ支台歯形成 9:個人トレー作製 10:ブリッジ精密印象・作業模型・咬合器付着 11:ブリッジワックスアップ 12:ブリッジ埋没・鋳造・研磨 13:ブリッジろう着 14:レジン前装、研磨 15:制作物提出・器具返却		
キーワード	クラウンブリッジ、歯冠修復、欠損補綴、固定性補綴		
教科書・教材・参考書	[講義]クラウンブリッジ補綴学(医歯薬出版) [実習]クラウンブリッジテクニック(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	<ul style="list-style-type: none"> 講義の成績評価は、中間テストと前期定期試験との合計で可否を判定する。60 点に満たない場合は、全範囲を対象とした再試験を一回行う。 実習は実習態度、成果物を基に評価を行う。60 点に満たない場合は、追加課題を課す。 試験、実習いずれも 60 点以上獲得した者を本科目の合格者とする。 		
受講要件(履修条件)	規定通り		
備考(学生へのメッセージ)	授業時間だけでは、消化しきれない内容が含まれているので予め教科書を読んでおき、1年間、欠かさず出席してほしい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	5	木	II～IV	II 講義: クラウンブリッジ補綴学の意義と目的・臨床成績 III 講義: 咬合・咀嚼障害 IV 講義: 診察と診断と感染予防・治療を左右する因子	澤瀬 黒嶋 尾立	講義室6A
2回	4	12	木	II～IV	II 講義: クラウンブリッジの要件・クラウンの種類 III, IV 実習: ドローイング・カービング	黒嶋 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
3回	4	19	木	II～IV	II 講義: ブリッジの種類と構成・設計 III, IV 実習: 全部鋳造冠支台歯形成	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
4回	4	26	木	II～IV	II 講義: インフォームドコンセント・前処置 III, IV 実習: レジン前装冠支台歯形成, 暫間被覆冠の作製	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
5回	5	10	木	II～IV	II 講義: 支台歯形成・支台築造 III, IV 実習: 築造窩洞形成・精密印象・作業模型	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
6回	5	17	木	II～IV	II 講義: 印象採得 III, IV 実習: メタルコアワックスアップ	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
7回	5	24	木	II～IV	II 講義: 咬合採得・咬合器(顎運動含む) III, IV 実習: クラウン精密印象・作業模型1	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
8回	5	31	木	II～IV	II 講義: プロビジョナルレストレーション・患者情報の記録と伝達 III, IV 実習: クラウン精密印象・作業模型2	黒嶋 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
9回	6	7	木	II～IV	II 講義: 第1章, 2章確認試験 III, IV 実習: クラウン咬合器付着	尾立 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
10回	6	14	木	II～IV	II 講義: 作業模型の製作・ワックスパターン形成 III, IV 実習: クラウンワックスアップ1	吉田 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
11回	6	21	木	II～IV	II 講義: 埋没・鋳造・熱処理・研磨 III, IV 実習: クラウンワックスアップ2	吉田 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
12回	6	28	木	II～IV	II 講義: ブリッジ(連結法)・装着 III, IV 実習: クラウン埋没	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
13回	7	5	木	II～IV	II 講義: レジン前装冠・ハイブリッド型コンポジットレジンジャケット冠 III, IV 実習: クラウン鋳造	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
14回	7	12	木	II～IV	II 講義: 陶材焼付冠 III, IV 実習: クラウン研磨, 製作物提出	澤瀬 吉田他	講義室6A 臨床実習室4B
15回	7	19	木	II～IV	II 講義: CAD/CAMによる製作・オールセラミッククラウン III 講義: 術後管理・装着後に発生する問題とその対応・高齢者・要介護者におけるクラウンブリッジ補綴 IV: 特別講義	澤瀬 尾立 佐々木	講義室6A 臨床実習室4B

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	10	4	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ講義: 中間試験、定期試験の解説 Ⅳ講義: 症例でみる欠損補綴の効果とリスク	澤瀬 武田 (非常勤)	第2講義室
17回	10	11	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ支台歯形成1	吉田他	臨床実習室4B
18回	10	18	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ支台歯形成2	吉田他	臨床実習室4B
19回	10	25	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: 個人トレー作製	吉田他	臨床実習室4B
20回	11	1	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ精密印象・作業模型1	吉田他	臨床実習室4B
21回	11	8	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ精密印象・作業模型2	吉田他	臨床実習室4B
22回	11	15	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ咬合器付着	吉田他	臨床実習室4B
23回	11	22	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジワックスアップ1	吉田他	臨床実習室4B
24回	11	29	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジワックスアップ2	吉田他	臨床実習室4B
25回	12	6	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジワックスアップ3	吉田他	臨床実習室4B
26回	12	13	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ埋没	吉田他	臨床実習室4B
27回	12	20	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ鑄造・研磨1	吉田他	臨床実習室4B
28回	12	27	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジ鑄造・研磨2	吉田他	臨床実習室4B
29回	1	10	水	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジレジン前装・研磨1	吉田他	臨床実習室4B
30回	1	17	木	Ⅲ～Ⅳ	Ⅲ,Ⅳ実習: ブリッジレジン前装・研磨2, 製作物提出, 器材返却	吉田他	臨床実習室4B

年度 2018 学期 通年	曜日・校時 金・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 4																														
科目番号	25034325																																
科目ナンバリング・コード	DNGD33121985																																
授業科目名/(英語名)	有床義歯補綴学及び同実習/(Plate Denture Prosthodontics)																																
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室、臨床実習室 4B																															
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ																																
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 村田比呂司/hmurata@nagasaki-u.ac.jp/病院8階歯科補綴学分野教授室/095-819-7690(内7690)/金曜 17:00～18:00																																	
担当教員(オムニバ ス科目等)	講義: 村田比呂司, 鳥巢哲朗, 黒木唯文, 西村正宏(非常勤講師), 二川浩樹(非常勤講師), 皆木省吾(非常勤講師) 実習: 黒木唯文, 鳥巢哲朗, 吉田和弘, 高瀬一馬, 稲光宏之, 多田浩晃, 篠原綾乃																																
授業の概要及び位置づけ																																	
歯科医師として有床義歯の臨床に必要な基礎的知識と技術を習得する。そのため授業では部分床義歯補綴学および全部床義歯補綴学の理論を考究する。また実習では義歯の基本的な製作法を学び、技術を習得する。																																	
授業到達目標																																	
1)有床義歯の目的, 意義および具備条件, 2)有床義歯の種類, 適応症, 支持機構, 把持機構, 維持機構, 3)有床義歯の咬合様式, 4)有床義歯の構成要素, 5)咬合採得する下顎位と咬合採得法, 6)下顎運動の記録法, 7)義歯製作に必要な生体材料の特性, 8)材料の基本操作や義歯製作に関する基本的手技, 9)義歯の適切な設計, 10)義歯の調整, リライン, 修理, 11)即時義歯および治療用義歯の目的と意義, 12)定期検診・管理, これらの項目について説明と実践ができる。																																	
授業方法(学習指導法)																																	
講義は教科書の内容を中心に, パソコンと液晶プロジェクターを用いて行い, 必要に応じてプリントを配布する。実習ではステップごとにその概説があり, 主要な項目は教員がデモ示説する。非常勤講師による特別講義も計画している。																																	
授業内容																																	
全部床義歯補綴学ついで部分床義歯補綴学の講義を行う。同時に義歯製作の実習も進行する。																																	
<table border="0"> <tr> <td>1 回目 L-F1:全部床義歯総論 1, L-F2:総論 2</td> <td>16 回目 P11:概形印象 診断用模型調整</td> </tr> <tr> <td>2 回目 P1:FD 概形印象</td> <td>17 回目 L-P1,P2:部分床義歯総論 1,2</td> </tr> <tr> <td>3 回目 L-F3:診察, 検査, 診断, 治療 1, L-F4:治療 2</td> <td>18 回目 L-P3,P4:総論 3,4</td> </tr> <tr> <td>4 回目 L-F5:治療 3, L-F6:治療 4</td> <td>19 回目 L-P5:総論 5, L-P6:診察, 検査, 診断, 治療 1</td> </tr> <tr> <td>5 回目 P2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着</td> <td>20 回目 L-P7:治療 2, 特別講義</td> </tr> <tr> <td>6 回目 L-F7:治療 5, L-F8:治療 6</td> <td>21 回目 P12:個人トレー, 補綴的前処置</td> </tr> <tr> <td>7 回目 P3:FD 人工歯排列</td> <td>22 回目 L-P8:治療 3, L-P9:咬合, フレームワーク</td> </tr> <tr> <td>8 回目 P4:FD 人工歯排列</td> <td>23 回目 P13:印象 模型の調整, サベイング</td> </tr> <tr> <td>9 回目 P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没</td> <td>24 回目 P14:ブロックアウト, リリーフ</td> </tr> <tr> <td>10 回目 P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合</td> <td>25 回目 P15:耐火模型作製</td> </tr> <tr> <td>11 回目 P7:上顎義歯重合, 割り出し</td> <td>26 回目 P16: ワックスアップ</td> </tr> <tr> <td>12 回目 P8:リマウント, 咬合調整, 研磨</td> <td>27 回目 P17:埋没, 咬合床作製</td> </tr> <tr> <td>13 回目 L-F9:治療 7, 特別講義</td> <td>28 回目 P18:鋳造, 研磨, 咬合採得</td> </tr> <tr> <td>14 回目 P9:咬合調整, 研磨</td> <td>29 回目 L-FP1,2:種々の義歯 1,2</td> </tr> <tr> <td>15 回目 P10:作品提出, 器具チェック, 特別講義</td> <td>30 回目 P19:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック</td> </tr> </table>				1 回目 L-F1:全部床義歯総論 1, L-F2:総論 2	16 回目 P11:概形印象 診断用模型調整	2 回目 P1:FD 概形印象	17 回目 L-P1,P2:部分床義歯総論 1,2	3 回目 L-F3:診察, 検査, 診断, 治療 1, L-F4:治療 2	18 回目 L-P3,P4:総論 3,4	4 回目 L-F5:治療 3, L-F6:治療 4	19 回目 L-P5:総論 5, L-P6:診察, 検査, 診断, 治療 1	5 回目 P2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着	20 回目 L-P7:治療 2, 特別講義	6 回目 L-F7:治療 5, L-F8:治療 6	21 回目 P12:個人トレー, 補綴的前処置	7 回目 P3:FD 人工歯排列	22 回目 L-P8:治療 3, L-P9:咬合, フレームワーク	8 回目 P4:FD 人工歯排列	23 回目 P13:印象 模型の調整, サベイング	9 回目 P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没	24 回目 P14:ブロックアウト, リリーフ	10 回目 P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合	25 回目 P15:耐火模型作製	11 回目 P7:上顎義歯重合, 割り出し	26 回目 P16: ワックスアップ	12 回目 P8:リマウント, 咬合調整, 研磨	27 回目 P17:埋没, 咬合床作製	13 回目 L-F9:治療 7, 特別講義	28 回目 P18:鋳造, 研磨, 咬合採得	14 回目 P9:咬合調整, 研磨	29 回目 L-FP1,2:種々の義歯 1,2	15 回目 P10:作品提出, 器具チェック, 特別講義	30 回目 P19:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック
1 回目 L-F1:全部床義歯総論 1, L-F2:総論 2	16 回目 P11:概形印象 診断用模型調整																																
2 回目 P1:FD 概形印象	17 回目 L-P1,P2:部分床義歯総論 1,2																																
3 回目 L-F3:診察, 検査, 診断, 治療 1, L-F4:治療 2	18 回目 L-P3,P4:総論 3,4																																
4 回目 L-F5:治療 3, L-F6:治療 4	19 回目 L-P5:総論 5, L-P6:診察, 検査, 診断, 治療 1																																
5 回目 P2:FD 精密印象, 咬合床作製, 咬合採得, 咬合器付着	20 回目 L-P7:治療 2, 特別講義																																
6 回目 L-F7:治療 5, L-F8:治療 6	21 回目 P12:個人トレー, 補綴的前処置																																
7 回目 P3:FD 人工歯排列	22 回目 L-P8:治療 3, L-P9:咬合, フレームワーク																																
8 回目 P4:FD 人工歯排列	23 回目 P13:印象 模型の調整, サベイング																																
9 回目 P5:歯肉形成, 下顎義歯埋没	24 回目 P14:ブロックアウト, リリーフ																																
10 回目 P6:上顎義歯埋没, 下顎義歯重合	25 回目 P15:耐火模型作製																																
11 回目 P7:上顎義歯重合, 割り出し	26 回目 P16: ワックスアップ																																
12 回目 P8:リマウント, 咬合調整, 研磨	27 回目 P17:埋没, 咬合床作製																																
13 回目 L-F9:治療 7, 特別講義	28 回目 P18:鋳造, 研磨, 咬合採得																																
14 回目 P9:咬合調整, 研磨	29 回目 L-FP1,2:種々の義歯 1,2																																
15 回目 P10:作品提出, 器具チェック, 特別講義	30 回目 P19:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック																																
[注:講義・・・L-F:全部床義歯, L-P:部分床義歯, L-FP:全部床義歯, ;:部分床義歯共通, 実習・・・P] (実習・講義の進行等により授業の順番等が変更になる可能性がある。その場合は事前に連絡する。)																																	
キーワード	部分床義歯補綴学, 全部床義歯補綴学, 咀嚼機能, 咬合																																
教科書・教材・参考書	教科書: 歯学生のパーシャルデンチャー 第5版(三谷春保他 編;医歯薬出版), 無歯顎補綴治療学 第3版(細井紀雄他 編;医歯薬出版) 参考書: パーシャルデンチャーテクニック 第5版(五十嵐順正他 編;医歯薬出版), コンプリートデンチャーテクニック 第6版(細井紀雄他 編;医歯薬出版)																																
成績評価の方法・基準等	定期試験(前期1回, 後期1回)と実習の評価をあわせて, 総合的に評価する。それぞれの評価比率は, 定期試験 80%, 実習 20%とする。また授業への貢献度も評価の対象とする。																																
受講要件(履修条件)	全体を通して総授業時間の3/4以上の出席が求められる。																																
備考(学生へのメッセージ)	教科書の内容は基本となるものであるため, 最低限理解する必要がある。 実習室を使用後は整理整頓し, きれいに清掃すること。																																

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-F1:全部床義歯総論1]全部床義歯,無歯顎の病因と病態,[L-F2:総論2]補綴装置としての全部床義歯,全部床義歯装着者にみられる主要症候等	村田・黒木	講義室6A
2回	4	13	金	Ⅲ～Ⅳ	[P1:FD概形印象]実習説明,概形印象採得,診断用模型作製,作業用模型(ゴム枠)作製	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
3回	4	20	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-F3:診察,検査,診断,治療1]医療面接とインフォームドコンセント,診察,検査,診断,治療計画の立案,前処置,[L-F4:治療2]印象採得	村田・黒木	講義室6A
4回	4	27	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-F5:治療3]顎間関係の記録[L-F6:治療4]下顎運動の記録と咬合器装着,咬合器	村田・鳥巢	講義室6A
5回	5	11	金	Ⅲ～Ⅳ	[P2:FD精密印象,咬合床作製,咬合採得,咬合器付着]個人トレー作製(印象採得は説明のみ),咬合床作製,咬合採得,咬合器付着	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
6回	5	18	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-F7:治療5]人工歯,人工歯排列,フレンジ,[L-F8:治療6]ろう義歯,埋没,重合,咬合器再装着,咬合調整等,研磨	鳥巢	講義室6A
7回	5	25	金	Ⅲ～Ⅳ	[P3:FD人工歯排列]人工歯排列(上顎前歯部,下顎前歯部)	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
8回	6	1	金	Ⅲ～Ⅳ	[P4:FD人工歯排列]人工歯排列(下顎臼歯部,上顎臼歯部)	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
9回	6	8	金	Ⅲ～Ⅳ	[P5:歯肉形成,下顎義歯埋没]人工歯排列(上顎臼歯部),下顎歯肉形成,下部埋没;金属フラスク使用(加熱重合レジン)	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
10回	6	15	金	Ⅲ～Ⅳ	[P6:上顎義歯埋没,下顎義歯重合]上顎歯肉形成,上顎スプルーイング,上部埋没;ゴムフラスク使用(流し込み重合レジン),下顎流蠟,分離剤の塗布,下顎加熱重合,徐冷	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
11回	6	22	金	Ⅲ～Ⅳ	[P7:上顎義歯重合,割り出し]上顎流蠟,リーフ,ポストダム,分離材の塗布,流し込みレジン重合,上下顎義歯割り出し	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
12回	6	29	金	Ⅲ～Ⅳ	[P8:リマウント,咬合調整,研磨]リマウント,選択削合(中心咬合位・偏心位),自動削合,研磨	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
13回	7	6	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-F9:治療7]義歯の装着,患者指導,義歯装着後の経過観察等(特別講義)バイオフィルム研究	村田・二川	講義室6A
14回	7	13	金	Ⅲ～Ⅳ	[P9:咬合調整,研磨]自動削合,研磨	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
15回	7	20	金	Ⅲ～Ⅳ	[P10:作品提出,器具チェック]作品提出,器具チェック(特別講義)補綴領域からの顎骨再生医療の基礎と未来	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原 西村	臨床実習室4B 講義室6A

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
16回	9	28	金	Ⅲ～Ⅳ	[P11:概形印象 診断用模型調整]診断用模型作製, サベイング(予備測定), ガイドプレーンとレストシートの形成練習, 義歯床・トレーの外形線記入, 人工歯の植え換え	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
17回	10	5	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-P1:部分床義歯総論1] 部分床義歯, 咀嚼系の構造, 機能運動, 咬合の不調和, 歯の欠損による継発する症状等, [L-P2:総論2] 部分床義歯の構成要素, 症型分類	村田・黒木	第2講義室
18回	10	12	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-P3:総論3] 支持, 把持の考え方, 維持の考え方, [L-P4:総論4] 材料, 大連結子	鳥巢・村田	第2講義室
19回	10	19	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-P5:総論6] 支台装置(クラスプ等), [L-P6:診察, 検査, 診断, 治療1] 診察と治療計画, (設計), 臨床ステップ, 前処置, 印象採得, (サベイング等)	黒木・黒木	第2講義室
20回	10	26	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-P7:治療2] 設計の考え方, サベイング (特別講義)顎機能と補綴 ー機能研究が臨床を変えるー	鳥巢・皆木	第2講義室
21回	11	2	金	Ⅲ～Ⅳ	[P12:個人トレー, 補綴の前処置]個人トレー製作, 模型咬合位の確認, ガイドプレーン・レストシート形成	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
22回	11	9	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-P8:治療3] 咬合採得, 人工歯排列, ろう義歯, 埋没, 完成, 義歯の装着, 患者指導, 経過観察等 [L-P9:咬合] 咬合, フレームワーク	村田・鳥巢	第2講義室
23回	11	16	金	Ⅲ～Ⅳ	[P13:印象 模型の調整, サベイング]印象採得, 作業模型・ 対合模型調整, サベイング(本測定)	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
24回	11	30	金	Ⅲ～Ⅳ	[P14:ブロックアウト, リーフ]メタルフレーム(鉤・連結子)の外形線記入, ブロックアウト, リーフ, 複印象と埋没材注入(耐火模型作製)	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
25回	12	7	金	Ⅲ～Ⅳ	[P15:耐火模型作製]埋没材注入(耐火模型作製), 耐火模型への外形線記入, メタルフレームワックスアップ	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
26回	12	14	金	Ⅲ～Ⅳ	[P16: ワックスアップ]メタルフレームワックスアップ	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
27回	12	21	金	Ⅲ～Ⅳ	[P17:埋没, 咬合床作製]スプルーイング, 埋没, 咬合床作製	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
28回	12	28	金	Ⅲ～Ⅳ	[P18:鑄造, 研磨, 咬合採得]鑄造(デモ), 研磨(デモ), 咬合採得, 咬合器付	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	臨床実習室4B
29回	1	11	金	Ⅲ～Ⅳ	[L-FP1:種々の義歯1] 複製義歯, 金属床義歯, オーバーデンチャー, 顎義歯 [L-FP2:種々の義歯2] 暫間義歯, 即時義歯, 移行義歯, 診断用義歯, 治療用義歯, インプラント義歯, 訪問	鳥巢・村田	第2講義室
30回	1	18	金	Ⅲ～Ⅳ	[P19:人工歯排列, 作品提出, 器具チェック]人工歯排列, 歯肉形成, 作品提出, 器具チェック	黒木・吉田・高瀬・稲光・多田・篠原	第2講義室 臨床実習室4B

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 火・Ⅲ～Ⅳ	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034326		
科目ナンバリング・コード	DNGD33131987		
授業科目名/(英語名)	口腔外科学Ⅰ及び同実習/ (Oral and Maxillofacial Surgery I and Practice)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室、臨床実習室 4B	
対象学生(クラス等)	科目分類	口腔生命科学各論Ⅱ	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 梅田正博/mumeda@nagasaki-u.ac.jp/病院8階口腔腫瘍治療学分野教授室/095-819-7695(内7695)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	梅田正博、川崎五郎、柳本惣市、五月女さき子、鳴瀬智史、柚島宏和、奥山紘平、川北晃子		
授業の概要及び位置づけ			
<p>口腔外科では、口腔、顎、顔面ならびにその隣接組織に生じる疾患のうち、う蝕や歯周病、義歯、ブリッジ、歯列不正などの歯科疾患を除くすべての疾患を取り扱う。具体的には智歯周囲炎、顎炎、顎骨周囲の蜂窩織炎などの炎症性疾患、顎の骨折や歯・軟組織の外傷、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、嚢胞性疾患、神経性疾患、耳下腺を除く唾液腺疾患、口腔腫瘍などである。さらに、歯科インプラントに関連する埋入手術や骨増量手術、さまざまな全身疾患を有する患者の抜歯を始めとする侵襲的歯科治療なども口腔外科で行っている。口腔やその周囲に病気が発生すると、審美的な異常だけでなく、食事や発音・会話がうまくできないなどの機能的な障害も生じうるが、治療により口腔・顎・顔面の形態や機能を回復させ、健康的な美しさを取り戻すことができる。その知識、技術を紹介しこれからの歯科医療を先端で担う歯科医師を育成することを目的とする。</p>			
授業到達目標			
各疾患の病因、病態、治療、予想される経過について、基本的な説明ができるようになる。			
授業方法(学習指導法)			
基礎的知識、臨床的知識、症例の実際を実践的に講義する。			
授業内容			
<ul style="list-style-type: none"> 1 回目 口腔外科総論 2 回目 先天異常と後天異常 3 回目 嚢胞性疾患 4 回目 炎症性疾患 5 回目 口腔粘膜疾患 6 回目 良性腫瘍と腫瘍類似疾患 7 回目 口腔癌の統括的治療、顎変形症の手術法 8 回目 悪性腫瘍 9 回目 悪性腫瘍 10 回目 中間試験 11 回目 血液疾患 12 回目 全身管理と歯科治療 13 回目 顎口腔に症状を呈する疾患 14 回目 採血・静脈路確保 実習 15 回目 切開と縫合 実習 			
キーワード	口腔外科学、口腔がん		
教科書・教材・参考書	教科書:口腔外科学(第5版)(医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	期末定期試験および実習の到達度を鑑み総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	口腔外科は臨床歯科医学の根幹をなし、一番ダイナミックな分野であると考えている。学生諸君にはその一端を示し、将来に役立ててもらいたい。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	火	Ⅲ～Ⅳ	口腔外科総論	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
2回	10	9	火	Ⅲ～Ⅳ	先天異常と後天異常	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
3回	10	16	火	Ⅲ～Ⅳ	嚢胞性疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
4回	10	23	火	Ⅲ～Ⅳ	炎症性疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
5回	10	30	火	Ⅲ～Ⅳ	口腔粘膜疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
6回	11	6	火	Ⅲ～Ⅳ	良性腫瘍と腫瘍類似疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
7回	11	13	火	Ⅲ～Ⅳ	口腔癌の統括的治療、顎変形症の手術法	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
8回	11	20	火	Ⅲ～Ⅳ	悪性腫瘍	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
9回	11	27	火	Ⅲ～Ⅳ	悪性腫瘍	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
10回	12	4	火	Ⅲ～Ⅳ	中間試験	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
11回	12	11	火	Ⅲ～Ⅳ	血液疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
12回	12	18	火	Ⅲ～Ⅳ	全身管理と歯科治療	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
13回	12	25	火	Ⅲ～Ⅳ	顎口腔に症状を呈する疾患	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
14回	1	8	火	Ⅲ～Ⅳ	採血・静脈路確保 実習	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B
15回	1	15	火	Ⅲ～Ⅳ	切開と縫合 実習	梅田正博	第2講義室・ 臨床実習室4B

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 金・I～II	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034327		
科目ナンバリング・コード	DNGD33141987		
授業科目名/(英語名)	口腔外科学Ⅱ及び同実習/ (Oral and Maxillofacial Surgery II and Practice)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室(一部講義室6B)、臨床実習室4B	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論Ⅱ		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 朝比奈 泉/asahina@nagasaki-u.ac.jp/病院8階顎口腔再生外科学分野教授室/095-819-7701(内7701)/随時			
担当教員(オムニバス科目等)	朝比奈 泉・大場誠悟・銅前昇平・三浦桂一郎・川崎貴子・井 隆司・梅林真由美・古賀喬充・中谷佑哉 中村誠司(非常勤講師)・依田哲也(非常勤講師)・中村典史(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ			
<p>歯科医師として臨床現場において前人的治療を行うための基礎として、顎顔面口腔領域に発生する疾患を理解し診断を導く思考力および判断力を養い、前心疾患をも含めた治療方針を決定する能力を身につける。口腔癌領域に生じる先天性あるいは後天性疾患に関してその原因、症状、診断および予後を学習し、これからの疾患の診断と、全身状態を考慮しながら治療方針を策定できる要素、及びこれからの疾患の予防に関する知識を学習する。</p>			
授業到達目標			
<p>授業内容に示した顎顔面口腔領域に発生する疾患に関し、その原因、症状、判断法および予後を説明できる。それによって、正しい診断を導く思考力を養い、適切な治療法を選択する能力を身につける。</p>			
授業方法(学習指導法)			
スライド・ビデオを中心にすすめ、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。			
授業内容			
<p>1回目 口腔外科診療法と治療の基本 2回目 先天異常と後天異常 3回目 顎顔面の外傷 4回目 口腔感染症 5回目 口腔粘膜疾患 6回目 悪性腫瘍 7回目 顎骨良性腫瘍と嚢胞性疾患 8回目 顎関節疾患 9回目 唾液腺疾患 10回目 手術基本手技 11回目 歯と歯槽の手術 12回目 神経疾患と心因性疾患 13回目 血液疾患 14回目 症例検討 15回目 症例検討</p>			
キーワード	口腔外科、診断、治療		
教科書・教材・参考書	<p>口腔外科学 宮崎正監修 医歯薬出版 標準口腔外科学 内山健志 他 医学書院 口腔科学 抜歯手技 堀之内康文 クインテッセンス出版 歯科における薬の使い方 デンタルダイヤモンド社 ハーバードの医師づくり 田中まゆみ 医学書院</p>		
成績評価の方法・基準等	<p>定期考査(筆記試験)により判断する(100点満点中60点以上を合格とする)。 再試験は筆記試験によって可否を判断する。 授業中の小テストは可否の判断材料とはしない。 発表形式も授業を行うが、発表内容を採点し、定期考査に加点する。</p>		
受講要件(履修条件)	なし		
備考(学生へのメッセージ)	<p>教科書等で予習をしておくことと理解が深まる。 非常勤講師の都合によりシラバス内容が変更になることもあるが、第一回講義の際に最終決定のシラバスを配布する。</p>		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	9	28	金	I～II	口腔外科診療法と治療の基本	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
2回	10	5	金	I～II	先天異常と後天異常	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
3回	10	12	金	I～II	顎顔面の外傷	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
4回	10	19	金	I～II	口腔感染症	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
5回	10	26	金	I～II	口腔粘膜疾患	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
6回	11	2	金	I～II	悪性腫瘍	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
7回	11	9	金	I～II	顎骨良性腫瘍とのう胞性疾患	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
8回	11	16	金	I～II	顎関節疾患	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
9回	11	30	金	I～II	唾液腺疾患	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
10回	12	7	金	I～II	手術基本手技	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
11回	12	14	金	I～II	歯と歯槽の手術	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
12回	12	21	金	I～II	神経疾患と心因性疾患	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
13回	12	28	金	I～II	血液疾患	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
14回	1	11	金	I～II	症例検討	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B
15回	1	18	金	I～II	症例検討	朝比奈 他	第2講義室・臨床実習室4B

年度 2018 学期 後期	曜日・校時 火・I～II	必修選択 必修	単位数 2
科目番号	25034319		
科目ナンバリング・コード	DNGD33151983		
授業科目名/(英語名)	歯科放射線学及び同実習/ (Head and Neck Radiology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習形式	教室 第2講義室	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィシアワー 中村 卓/taku@nagasaki-u.ac.jp/病院8階頭頸部放射線学分野教授室/095-819-7707(内7707)/9:00～17:00まで随時			
担当教員(オム ニバス科目等)	中村 卓、角 美佐、佛坂由可、片山郁夫、佐々木美穂、高木幸則、榮田智、有地榮一郎(非常勤講師)、大喜雅文(非常勤講師)		
授業の概要及び位置づけ 放射線その他の方法を用いた画像診断ならびに放射線治療の基礎的知識とその応用を学ぶ。			
授業到達目標 1. 歯科放射線学において基礎となる放射線物理学ならびに放射線生物学を理解するとともに歯科X線撮影のための技術的知識を説明できる。 2. 顎顔面領域で行われる画像診断の基礎的な内容を説明できる。			
授業方法(学習指導法) スライド・ビデオを中心にすすめ、小テスト、学生による発表を取り入れ理解を深める。			
授業内容 1 回目 オリエンテーション、画像診断学概論 2 回目 放射線生物学 3 回目 エックス線の発生と性質 放射線の発生と性質、物質との相互作用 4 回目 歯科用エックス線撮影法 5 回目 放射線の単位と防護 6 回目 CTの基礎 / CT造影診断学 7 回目 MRI診断学(1) 8 回目 MRI診断学(2) 9 回目 放射線治療 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療の基礎 10 回目 唾液腺のMRI診断 / 顎関節のMRI診断 11 回目 顎骨のエックス線診断 12 回目 超音波診断 / 自己免疫疾患 13 回目 RI診断学 14 回目 顎関節 / 胸部X線 15 回目 全身疾患			
キーワード	Radiology, Imaging, Radiation		
教科書・教材・参考書	特になし		
成績評価の方法・基準等	出席ならびに定期試験により評価する。試験にて60点以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	3/4の出席		
備考(学生へのメッセージ)	特になし		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	10	2	火	I・II	オリエンテーション、画像診断学概論	中村	第2講義室
2回	10	9	火	I・II	放射線生物学	佛坂	第2講義室
3回	10	16	火	I・II	エックス線の発生と性質 放射線の発生と性質、物質との相互作用	大喜	第2講義室
4回	10	23	火	I・II	歯科用エックス線撮影法	片山	第2講義室
5回	10	30	火	I・II	放射線の単位と防護	片山	第2講義室
6回	11	6	火	I・II	CTの基礎 / CT造影診断学	角	第2講義室
7回	11	13	火	I・II	MRI診断学(1)	角	第2講義室
8回	11	20	火	I・II	MRI診断学(2)	角	第2講義室
9回	11	27	火	I・II	放射線治療 口腔領域悪性腫瘍の放射線治療の基礎	有地	第2講義室
10回	12	4	火	I・II	唾液腺のMRI診断 / 顎関節のMRI診断	角	第2講義室
11回	12	11	火	I・II	顎骨のエックス線診断	榮田	第2講義室
12回	12	18	火	I・II	超音波診断 / 自己免疫疾患	高木	第2講義室
13回	12	25	火	I・II	RI診断学	佐々木	第2講義室
14回	1	8	火	I・II	顎関節 / 胸部X線	角/中村	第2講義室
15回	1	15	火	I・II	全身疾患	角	第2講義室

年度 2018 学期 前期	曜日・校時 金・1、2	必修選択 必修	単位数 1.5
授業コード	25034320		
授業科目/(英語名)	歯科麻酔学及び同実習 (Dental Anesthesiology)		
対象年次 4年次	講義形態 講義・実習	教室 講義室6A(C棟6階)	
対象学生(クラス等)	科目分類 口腔生命科学各論II		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 鮎瀬卓郎/ayuse@nagasaki-u.ac.jp/歯科麻酔教授室/819-7713/月～金曜日 午後5時～6時			
担当教員(オムニバス科目等)	鮎瀬卓郎、讃岐拓郎、倉田眞治、出口繁、岡安一郎、境徹也、山下和範、関野裕		
授業の概要及び位置づけ/授業到達目標/授業方法(学習指導法) (500文字) 全身状態を観察する目を養う。 歯科治療に欠かせない局所麻酔について十分な知識をもつ。 歯科治療時の全身的偶発症の対処法、予防法を学ぶ。			
授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字) 概要 全身麻酔、局所麻酔、鎮静法、心肺蘇生法、疼痛治療を通して安全で痛くない歯科治療の原則と救急時の対処法を学ぶ。 授業内容 1回目 歯科麻酔学概論 2回目 呼吸・循環の生理 3回目 代謝・神経の生理 4回目 麻酔管理に関連する口腔咽頭部の解剖を学ぶ 5回目 麻酔管理に用いる装置・器具等について学ぶ 6回目 麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用を学ぶ 7回目 歯科麻酔学の知識・技術を歯科医療の現場でどう活用するか 8回目 麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法を学ぶ 9回目 麻酔中、周術期の代謝管理と疼痛管理について学ぶ 10回目 高度な全身管理の方法について学ぶ 11回目 疼痛の発生機序と治療法を学ぶ 12回目 局所麻酔薬および局所麻酔法について学ぶ 13回目 鎮静法がなぜ有効かを学ぶ 14回目 歯科治療時に起こる合併症について学ぶ 15回目 歯科治療時の心肺蘇生法を学ぶ 16回目 定期考査			
キーワード	全身管理 局所麻酔 全身偶発症の予防		
教科書・教材・参考書	歯科麻酔学 (第7版 医歯薬出版)		
成績評価の方法・基準等	定期考査100%		
受講要件(履修条件)			
備考(学生へのメッセージ)	生理学、薬理学の復習をしておくこと。必ず翌週の講義内容について予習をすること。講義では、質疑応答を通して、講義を進めていく。		

No.	月	日	曜日	校時	授業項目・授業内容	教員名	教室
1回	4	6	金	1,2	歯科麻酔学概論(歯科麻酔学の歴史、学ぶ意義) 歯科麻酔学のが歴史を通して歯科医学の中の位置づけを考える (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
2回	4	13	金	1,2	呼吸、循環の生理 麻酔管理、全身評価に必要な呼吸と循環の臨床生理学を学ぶ (教材) 歯科麻酔学、DVDなどを用いた呼吸音、心音の体感	鮎瀬卓郎	講義室6A
3回	4	20	金	1,2	代謝・神経の生理 麻酔管理、全身評価に必要な代謝・神経の臨床生理学を学ぶ (教材) 歯科麻酔学、プリント	鮎瀬卓郎	講義室6A
4回	4	27	金	1,2	麻酔管理に関連する口腔咽頭部の解剖を学ぶ 歯科治療と領域を共有する歯科麻酔管理の特殊性を学ぶ (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
5回	5	11	金	1,2	麻酔管理に用いる装置・器具等について学ぶ 全身麻酔および静脈麻酔に用いる装置・器具等について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
6回	5	18	金	1,2	麻酔管理に用いる麻酔薬の薬理学的作用を学ぶ 全身麻酔、静脈麻酔等に使用する麻酔薬の薬理作用を学ぶ (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
7回	5	25	金	1,2	高度な全身管理:救急部での呼吸・循環管理について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	山下和範、 未定	講義室6A
8回	6	1	金	1,2	麻酔中および周術期管理に必要なモニタリングの考え方・方法を学ぶ バイタルサインの評価およびモニタリング機器について学ぶ (教材) 歯科麻酔学、実際の生体モニターの取り扱いについて学ぶ	鮎瀬卓郎	講義室6A
9回	6	8	金	1,2	麻酔中、周術期の代謝管理(輸液)と疼痛管理について学ぶ 創傷治療まで考慮した全身管理方法について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	倉田眞治	講義室6A
10回	6	15	金	1,2	歯科麻酔学の知識・技術を現場でどう活用するか(開業医の立場から):1校時目 高度な全身管理:ICUでの呼吸・循環管理について学ぶ:2校時目 (教材) プリント	出口繁、 関野元裕	講義室6A
11回	6	22	金	1,2	疼痛の発生機序と治療法を学ぶ 歯科における急性痛および難治性疼痛の発症機序と治療法を学ぶ (教材) 歯科麻酔学	境 徹也、 岡安一郎	講義室6A
12回	6	29	金	1,2	局所麻酔薬および局所麻酔法について学ぶ 局所麻酔の作用機序、麻酔薬の薬理作用と解剖、血管収縮薬について学ぶ (教材) 歯科麻酔学、注射器などを用いて実際の局所麻酔法を学ぶ	鮎瀬卓郎	講義室6A
13回	7	6	金	1,2	鎮静法がなぜ有効かを学ぶ(吸入鎮静法と静脈内鎮静法について学ぶ) 鎮静法に用いる装置、薬剤、それぞれの鎮静法の利点、欠点 (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
14回	7	13	金	1,2	歯科治療中に起こる合併症について学ぶ 歯科治療中に起こりうる全身的、局所的合併症について学ぶ (教材) 歯科麻酔学	鮎瀬卓郎	講義室6A
15回	7	20	金	1,2	歯科治療時の心肺蘇生(歯科医師に必要な基本的救急蘇生:BLS)を学ぶ 歯科治療時に起こる全身的偶発症とその対処法を学ぶ (教材) 歯科麻酔学、マネキンを用いて実際的心肺蘇生を学ぶ	倉田眞治	講義室6A
予備日	7		金	1,2			
	7	27	金		歯科麻酔学 定期試験	鮎瀬卓郎	